

平成 31 年度 大仙市立中学校生徒海外派遣事業

# オーストラリア研修 報告書



令和2年1月4日(土)～1月12日(日)

■旅行日程:2020年1月4日(土)~1月12日(日)

日程		地名	現地時刻	交通機関	行程	朝食	昼食	夕食	
1	1/4 (土)	大曲駅(集合)	11:00	こまち18号	出発式		×各自	○機内	
		大曲駅発	11:44		新幹線にて東京駅へ				
1	(土)	東京駅着	15:04	NEX39号	成田エクスプレスにて成田空港へ				
		東京駅発	16:03		出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、ケアンズへ				
		空港第2ビル着	16:56	JQ026	(所要7時間30分)				【機中泊】
		成田空港発	20:10						
2	1/5 (日)	ケアンズ空港着	04:40	専用車	入国手続き後、マンガリーへ移動(所要:約1:40) レインフォレストロッジにて朝食後、休憩、出発準備 オリエンテーション後、ホストファミリーと面会 ファームステイ先へ移動 オーストラリア体験生活 スタート	○ロッジ	○ステイ先	○ステイ先	
		ケアンズ空港発	06:20						
		マンガリフォールズ着	08:00						【ファームステイ泊】
3	1/6 (月)	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活	○ステイ先	○ステイ先	○ステイ先	
4	1/7 (火)	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活	○ステイ先	○ステイ先	○ステイ先	
5	1/8 (水)	マンガリフォールズ	午前 終日		各ステイ先よりマンガリーに集合、チーズケーキづくり体験 現地生徒(オージーキッズ)マンガリー到着 昼食後、交流活動開始 夕食後、ダンスパーティー 土ボタル鑑賞	○ステイ先	○ロッジ	○ロッジ	
6	1/9 (木)	マンガリフォールズ ケアンズ	07:15	専用車	ロッジにて朝食後、マンガリーを出発	○ロッジ	×各自	○レストラン	
			09:30		キュランダへ【山】				
			13:30	鉄道	ワイルドライフパーク、アボリジニショー、アーミーダック、キュランダ村で昼食				
			15:55		キュランダ鉄道に乗車、ケアンズへ				
			17:00		ケアンズ到着後、徒歩にてホテルへ				
18:30	ホテルにて『グレートバリアリーフ』について事前学習会 市内レストランにて夕食(シーフード)	【ダブルツリー・バイ・ヒルトン泊】							
7	1/10 (金)	ケアンズ	午前	徒歩 船	ホテルにて朝食後、	○ホテル	×各自	○ホテル	
			08:30		グリーン島観光へ【海】(高速船50分)				
			12:50		グラスボトムボート または シュノーケリングを選択				
			17:15		ケアンズ港到着。到着後ケアンズ市内にて昼食(各自)とお買物				
18:15	夕食後、海外で活躍している日本人へのインタビュー (夕食はテーブルマナー)	【ダブルツリー・バイ・ヒルトン泊】							
8	1/11 (土)	ホテル発	09:00	専用車 JQ025	ホテルにて朝食後、ケアンズ空港へ	○ホテル	○機内	×各自	
		ケアンズ空港発	12:15		出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、帰国の途へ				
		成田空港着	18:45	貸切バス	(所要7時間30分)				
		成田空港発	20:30		入国手続き後、到着口へ 貸切バスにて大仙市へ				【車中泊】
9	1/12 (日)	大仙市役所着	6:30		到着後、解散式 おつかれさまでした				

平成31年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業参加生徒名簿

NO	学校名	学年	生徒氏名	NO	学校名	学年	生徒氏名
1	大曲	2	きさきき りりこ 佐々木 莉吏子	10	西仙北	2	きさきき りほ 佐々木 莉帆
2	大曲	2	たいら ほのか 平 穂乃香	11	西仙北	2	にった ゆい 新田 結衣
3	大曲	2	ときた たいき 時田 太輝	12	中仙	2	たかはた いぶき 高畠 芽吹
4	大曲	2	とざわ なつき 戸澤 菜月	13	中仙	2	ながさわ りりか 長澤 李々花
5	大曲	2	ながさわ ゆい 長澤 由衣	14	協和	2	くつざわ あずさ 沓澤 あずさ
6	大曲	2	ふじわら みなみ 藤原 美奈海	15	協和	2	きさきき しずく 佐々木 雫
7	大曲西	2	やまざき ゆい 山崎 由依	16	南外	2	いとう たくま 伊藤 巧真
8	平和	2	くめかわ かのん 久米川 華穂	17	仙北	2	たけむら なおあき 竹村 直晃
9	西仙北	2	きさきき しき 佐々木 四季	18	仙北	2	もてぎ かな 茂木 柑菜



## 事前説明会予定

10月16日(水) PM 6:00~7:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・派遣生等紹介</li><li>・教育指導課長より</li><li>・前年度参加者より</li><li>・諸連絡(教育指導課)</li><li>・渡航にあたっての説明(担当者)</li><li>・今後の学習会について</li></ul>	
12月16日(月) PM 6:00~7:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・ファームステイ及び日程についての最終確認等(担当者)</li></ul> <p>※保険料の持参</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・緊急連絡先等提出(教育指導課教育研究所)</li></ul>	

## 事前学習会予定

11月11日(月) 第1回学習会 PM 4:30~6:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・ALT、CIRによるオーストラリアの文化等紹介</li><li>・自主研究テーマの設定 その他</li></ul> <p>※提出 海外旅行お伺い書(パスポートの顔写真のページを貼付) ホームステイアプリケーションフォーム、海外旅行保険申込書、</p>	
11月29日(金) 第2回学習会 PM 4:30~6:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・自主研究テーマの提出(面接により、自主研究テーマを広げる・深める)</li><li>・英会話レッスン(自己紹介・機内・税関・ショッピング・ホテル・道をたずねる・乗り物)</li></ul>	
12月27日(金) 第3回学習会 結団式 AM 9:00~PM 3:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・ファームステイグループごとの打ち合わせ(日本文化紹介準備活動等)</li><li>・結団式</li><li>・自主研究のための事前リサーチ活動・アンケート等準備</li><li>・作成レポートについて(様式、枚数、締め切り等)</li><li>・報告会について</li></ul> <p>※昼食をはさむので、弁当、飲み物を持参してください。</p>	

## オーストラリア海外研修

1月4日(土)~1月12日(日)	場所: オーストラリア(ケアンズ)
------------------	-------------------

## 報告会・解団式予定

2月12日(水) 報告会及び解団式 PM 3:00~4:45	場所: 仙北ふれあい文化センター
<ul style="list-style-type: none"><li>・グループ別 個人発表</li><li>・感想発表</li></ul>	

## 結団式 派遣生徒代表誓いの言葉

オーストラリア研修の日まで残りわずかとなりました。今、私は不安もありますが、希望で胸がいっぱいです。

私がこの派遣事業に申し込んだ理由は大きく二つあります。一つは、世界の伝統文化、伝統芸能に興味があり、深く学びたいと思ったからです。大仙市には昔から大切に引き継がれてきた素晴らしい伝統文化、伝統芸能がたくさんありますが、認知度が低く、魅力を発信しきれていないように思います。私は今年の研修で、オーストラリアの伝統文化や伝統芸能が国内、そして世界にどのように発信されているかを学び、今後の大仙市の魅力を世界に広められるヒントを見つけたいです。

もう一つは自分の世界観を広げたいと思ったからです。本やメディアなどでたくさんの情報を知ることができますが、「百聞は一見にしかず」ということわざがあるように、自分の目、耳、そして肌で感じ、それを吸収してきたいです。さらに、吸収してきたことを自分の可能性を広げる力にし、大仙市の更なる発展のために貢献したいと思います。

今日ここに集まった私たちは、大仙市の未来を担う 18 人です。選んでいただいたことに自覚と責任をもち、しっかりと学んでくることを誓います。

最後になりますが、教育委員会の皆様、そして家族に、今回の研修に参加させてくださったことに感謝いたします。この感謝の気持ちを忘れず、楽しむことができます。

(大曲中学校 佐々木 莉吏子)

いよいよオーストラリアでの研修が始まります。初めての海外、そして親元を離れての活動に、今からドキドキ、ワクワクしています。

私の研究テーマは、「日本の音楽、伝統の知名度を世界に広めるには」です。私は特に、歌舞伎や能の独特な言い回しに魅力を感じています。また、浮世絵や伝統工芸にも興味があります。私はこれらの芸術をもっと世界に広めたいです。そのためにも現地の人たちと積極的に交流し、日本の伝統文化の魅力を伝えたいです。帰国したら、インタビューの様子や日本文化を紹介する内容を動画にして秋田を訪れた外国の方にお見せしたり、浮世絵を一緒に作る体験教室を企画したりしたいです。

他にも、ファームステイやオーギーキッズとの交流、アボリジニショーの鑑賞など、楽しみにしていることはたくさんありますが、中でもファームステイが本当に楽しみです。ホストファミリーの方たちとたくさんお話をし、積極的にお手伝いをして多くのことを学びたいです。引率してくださる先生方、添乗員さん、どうぞよろしくお願いいたします。また、このような機会を与えてくださった大仙市教育委員会の方々と家族に心から感謝します。

(西仙北中学校 佐々木 四季)

平成31年度 海外派遣 自主研究テーマ 一覧

NO	学校名	学年	生徒氏名	自主研究テーマ
1	大曲	2	佐々木 莉吏子	大仙市の伝統芸能を世界に発信するためには、何ができるのか？
2	大曲	2	平 穂乃香	秋田の食文化の魅力を伝えるために何ができるか？
3	大曲	2	時田 太輝	どうすれば大仙市の魅力をPRできるか
4	大曲	2	戸澤 菜月	大仙市の伝統を世界にPRするにはどのような工夫が必要か
5	大曲	2	長澤 由衣	大仙市の伝統文化を知ってもらうにはどうしたらよいか？
6	大曲	2	藤原 美奈海	大仙市の健康寿命を長くするにはどうしたらよいか
7	大曲西	2	山崎 由依	世界にアピールできる秋田の観光地は？
8	平和	2	久米川 華穂	SDGsを利用して大仙市の魅力をPRするには？
9	西仙北	2	佐々木 四季	日本の音楽・芸術の知名度を世界に広めるには
10	西仙北	2	佐々木 莉帆	日本とオーストラリアの自然災害への対策の共通点は何か？
11	西仙北	2	新田 結衣	大仙市のよさを広くPRするにはどうすべきか？
12	中仙	2	高畠 芽吹	たくさんの方が生涯スポーツに親しむためには？
13	中仙	2	長澤 李々花	大仙市の自然環境を守っていくにはどうすべきか？
14	協和	2	沓澤 あずさ	大仙市の魅力を発信し、観光客を増やすためには？
15	協和	2	佐々木 雫	大仙市の観光スポットをたくさんの人に知ってもらうには？
16	南外	2	伊藤 巧真	外国人観光客にも関心をもってもらえるイベントとは？
17	仙北	2	竹村 直晃	大仙市の観光地の魅力を発信するためには？
18	仙北	2	茂木 柑菜	大仙市に住む人を増やし、活性化するにはどうしたらよいか？

# A U S T R A L I A   R E P O R T

No. 1 大曲中学校 佐々木 莉吏子

## I はじめに

私が、この研修に応募した理由は二つあります。

一つ目は、世界の伝統文化、伝統芸能に興味があるからです。オーストラリアの伝統文化と芸能がどのように国内や世界に発信されているかを学び、今後の大仙市の魅力発信のために生かしたいと思っています。

二つ目は、自分の価値観を広げたいからです。「百聞は一見に如かず」ということわざがあります。自分の目、耳、そして肌で感じたことを吸収し、価値観を広げ、大仙市の更なる発展のために貢献したいと思っています。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

**『大仙市の伝統文化を世界に発信するためには、何ができるのか？』**

### 2 設定理由

大仙市には、昔から大切に引き継がれてきた素晴らしい伝統文化、伝統芸能がたくさんあります。しかし、認知度が低く、魅力を発信しきれていないように感じます。

そこで、オーストラリアの伝統文化、芸能がどのように国内や世界に魅力を発信されているかについて調べたいと思いました。そして、学んだことを今後の大仙市に生かせればと思い、このテーマにしました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- (1) どの年代も興味を示す、伝統文化を基にしたイベント企画があるのではないかな。
- (2) インターネットでの発信、SNS活用、ポスター作成がされているのではないかな。

### 2 検証方法

- (1) 大仙市内の資料館を訪ね、情報を収集する。
- (2) ホストファミリーや、現地在住の日本人の方々に調査する。

### 3 調べた内容

- (1) 花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」に行き、花火について調べました。
  - ・関ヶ原の戦い後、佐竹氏の配下が花火を作ったことにより、花火が伝来した。
  - ・諏訪神社の祭礼の奉納花火が定着した。



- ・盛り上げるために、県外から花火師を招集した。

→これが「大曲の花火」の始まり

(2) ホストファミリーと現地の日本人の方に、オーストラリアの文化や、文化の発信方法について聞きました。

- ・バーベキューやスポーツ→大自然の中でできるイベントがある。
- ・オーストラリアの伝統文化はあまりない→白人に植民地にされたから。
- ・50年程前から、アボリジニの文化を大切にしようとする動きが出てきた。
- ・歴史が浅い国→アボリジニの文化がほぼ失われたから。
- ・オーストラリアはほぼヨーロッパの文化→植民地だったから。
- ・文化を伝えるために→自分の市を客観的に見たり、他の市と比べたりすることが有効である。

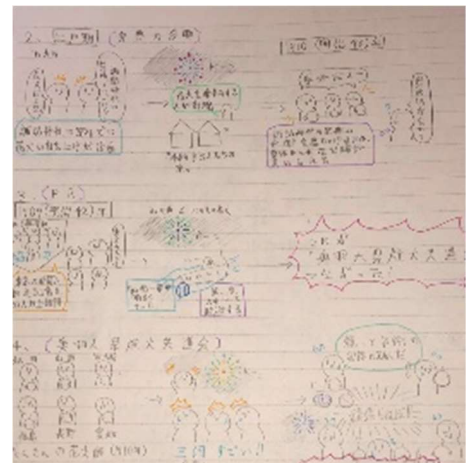
## 4 考察

オーストラリアの文化は、自然を生かして出来るイベントなどがありますが、伝統的なものが少なく、イギリスを中心としたヨーロッパ文化でした。

しかし、「自然がある」ということは「見て楽しめる」「四季の彩りを楽しめる」ということだと思いました。これを生かし、色使いを工夫したポスターなど大仙市を訪れる人の目にとまるような「見て、感じて、知ることができるもの」を作れば、もっと発信できるのではないのでしょうか。

そして、他の地域と大仙市を比べ、「大仙市にはこれがある！」と言えるようなものを、特に私たち若い世代はもっと知らなくてはいけないと思います。花火はもちろんのこと、ドンパン節、各地域で行われるささら舞や神楽、刈和野、大曲の綱引き、梵天などの勇壮な祭り、国指定史跡である弘田柵跡、その他歴史的な建造物などがたくさんあります。今回の経験があったからこそ、私も深く知ることができました。全てには、長く深い歴史があります。大事なはその歴史を正しく知ることだと思います。私は学校で美術部に所属していますが、子供に分かりやすく、中高年の方にも共感を得られるような楽しい“4コマ漫画”などで伝えることはできないかと思いました。

毎年大曲の花火大会には全国からたくさんの観光客が訪れます。もちろん外国人もいらっしゃいます。花火会場で、花火ウィークの開催場所などで、「大仙市の伝統、文化、芸能」を観ていただく、紹介できる場面を設けることはいかがでしょうか？それが一番スムーズに地元をアピールできることだと思います。新しいことを創り出し、慣習となるには時間と歴史が必要です。今ある文化と歴史を私たちはもっと理解し、大切に繋げていかなければいけません。



大曲の花火の歴史を漫画にしてみました

## IV エピソード

### 1 ホストファミリーに秋田を紹介

事前に作成したスクラップブックをホストファミリーに見てもらいました。秋田の伝統文化、芸能をたくさん紹介できました。特に興味をもっていたのが「大曲の花火」「火振りかまくら」でした。

見てインパクトのあるものを「興味深い」と思ったようです。また、ホストファミリーに「もち」と「抹茶」を食べてもらいました。日本特有のものを知ってもらえたと思います。



事前作成したスクラップブック



もちと抹茶を食べてもらいました

## 2 アボリジニの文化を見学

キュランダにて「アボリジニの文化」を見学しました。「ディジュリドゥ」という楽器は、シロアリに食べられたユーカリの木を利用した楽器です。カンガルーのジャンプしている様子や、ワライカワセミの鳴き声など、多彩な表現で演奏してくれました。この後、アボリジニショーを見ました。ディジュリドゥなどの音色に合わせて、様々な場面をダンスで表現してくれました。伝統あるアボリジニの文化を広めようとしている活動が素晴らしいと思いました。



感動したアボリジニショー

## 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

(1) 水野 那由太さん

Q 今の日本に必要なものは何だと思いますか？

A 日本→ゆとり

今の日本人は、「家族に時間が必要」だと思う。日本人は働きすぎ、もっとゆとりをもって生活するべき。

(2) 中村 有佳さん

Q 日本のよいところは何だと思いますか？

A 日本には、昔から続くたくさんの伝統がある。オーストラリアにはあまりないので、とて

もいいと思う。日本人は「堅苦しい」イメージがあるが、だからこそ、几帳面さを生かした「社会サービス」は素晴らしいと思う。

(3) 松井 彰大さん

Q オーストラリアに来て、自分が変わったと感じたことはありますか？

A 日本にいる時は、ネガティブな考え方だったのに、オーストラリアに来てからはポジティブな考え方になった。教育の違いかもしれない。日本は「苦手なことを克服する」という教育だが、オーストラリアは「得意なことを伸ばす」という教育だ。

## V 海外研修を終えて

結団式で教育長さんがおっしゃった「百聞は一見に如かずということわざがあるが、一を見るために百を知る」「事前の準備、情報収集が大切だ」という言葉に心を打たれました。「一见」をより充実したものにするため、出発日の前日までインターネットを使い、アボリジニについて、そして、大仙市の伝統文化、芸能を調べて要点をスクラップブックにまとめました。ホストファミリーに読んでもらえるように英語で説明を付けました。研修中は、オーストラリアの素晴らしさに感動したと共に、大仙市のよさをあらためて感じることができました。今回の研修は、私の応募理由の「価値観を広げる」という目標を達成できた有意義な研修となりました。考察にも書いたように、私たち若い世代でもできることはあります。これからも自分の町を誇れるように大仙市の一員として考え、行動していきたいと思えます。最後に、引率して下さった牛木先生、佐々木先生、日本旅行の飛田さん、一緒に学んだ仲間、送り出してくれた家族、そして今回の機会を与えて下さった教育委員会の皆様への感謝の気持ちを忘れず、研修で学んだことを生かしていきたいと思えます。



オージーキッズと思い出の一枚



GwenさんとBruceさん



かわいいワラビー

Thank you, Australia

I will not forget these memories

# オーストラリアレポート

No. 2 大曲中学校 平 穂乃香



機内から見た景色

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は二つあります。

一つ目は、日本と違う食文化について知り、日本にはない魅力や相違点を自分の肌で感じ吸収し、知識を増やしたいと思ったからです。

二つ目は、自分の英語力が現地ではどのくらい通用するか試してみたかったことと同時にオーストラリアのネイティブの英語に触れ、英語力を今以上に伸ばしたいと思ったからです。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『秋田の食文化の魅力を伝えるために何ができるか？』

### 2 設定理由

私の将来の夢は、管理栄養士になることなので、地元秋田の食文化についてとても興味があります。そしてたくさん魅力を知っています。そのため、秋田の食文化の魅力を率先して広めていきたいと考え、この研究テーマにしました。

### Ⅲ 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

#### 1 予想

オーストラリアでは豊かな自然を活かした第一次産業が盛んです。小麦や牛肉などは、オーストラリアを支える重要な財政源となっています。そして、第一次産業を基盤として、加工製造をする第二次産業(チーズ、バターなどの酪農製品)からも分かるように、その地域の資源を活かした料理を発信しているのではないかと考えました。

#### 2 検証方法

- (1) 秋田の食文化や料理をリサーチし、魅力や特色を調べる。
- (2) オーストラリアの食文化について、現地の方々に尋ねたり、現地の方々にとって日本の食文化の何がよいかを聞いたりする。

#### 3 調べた内容

- (1) 大仙市は、冬場は深い雪で覆われることが多く、冬を生き抜く貯蔵技術を生かした野菜や山菜の漬物があり、代表的なものにいぶりがっこがあります。
- (2) 現地の人にインタビューしました。

Q Which one do you want to eat first?

A IBURIGAKKO.

Q Why did you want to eat it?

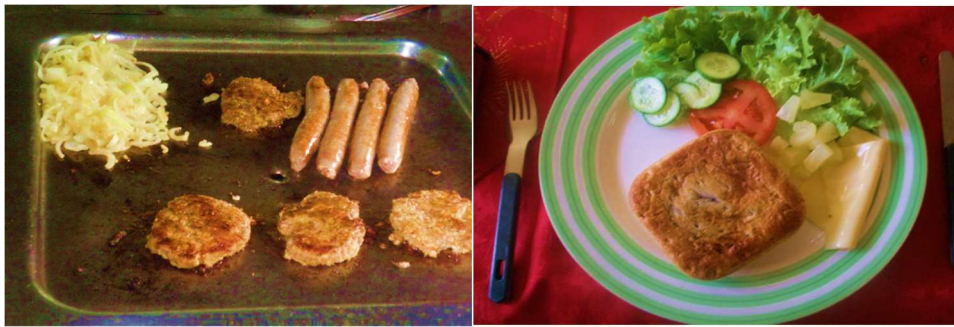
A It looks good to eat.

Q What are some traditional foods in Australia?

A ANZAC BISCUIT.

#### 4 考察

秋田の食文化の魅力伝えるには、「冬に雪が多いため、保存食が多い」という特徴をPRポイントにするべきだと考えました。保存食は、その地域の加工技術とその地域に住んでいる人の知恵から生まれると聞いたことがあります。また、ホストマザーに秋田の代表的な食べ物を紹介した時に、いぶりがっこが美味しそうだと話していました。人の食欲を増す色は、暖色系と言われているので、見た目にも気を遣うべきだと思いました。



## ホストファミリーとの食事

### IV エピソード

#### 1 夕食中に起きた驚くべき出来事!!



ホストファーザー Geoff



ホストマザー Jeannette



オージーキッズ

ホストファミリーとの夕食時に外から防犯ブザーのような音がし、少し時間が経つと、ピタッと音が止みました。そのことをホストマザーに聞くと、「それはセカーラだよ」と教えてくれました。セカーラとはセミより小さい昆虫で、セミより長生きするそうです。仲間意識が強く、一匹が泣き止むと他も泣き止みます。小さな昆虫が、防犯ブザー並みの音量を出すことにとっても驚きました。

#### 2 ファームステイで驚き体験！！

ファームステイ先の家に入る時、友達が悲鳴を上げたので理由を聞くと、「トカゲが家に入った」と話してくれました。しかし一度ではなく二度も入ったのには驚きました。ホストマザーからは、蛇も入ってくるから戸締りに気をつけてと言われました。これは、自然豊かなケアンズだからこそ起きたことだと思いました。

#### 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

Q オーストラリアと日本の大きな違いは何ですか？

A オーストラリアは様々な国籍の人々が住む国で、日本の場合は日本人がほとんどである。

Q オーストラリアで人気の食べ物は何ですか？

A イギリスから来た人が多いため、フィッシュアンドチップスが人気。

Q オーストラリアで有名な日本の食べ物は何ですか？

A オーストラリアでは、日本といえば寿司というイメージが強い。

インタビューをさせていただいた三人の方々の心に残った言葉。

水野那由太さん

英語を覚えるにはどうしたらいいかという質問に対して、自分の失敗談を教えてくれ、「恥をかいて必死になったことほど覚えられる」と話してくれました。

中村有佳さん

「オーストラリアで日本の文化を教えようと思ったきっかけは何ですか」という質問に対して、「日本が自分と合わなくてオーストラリアに来たけれど、後から日本のよさに気づいて、日本の文化を広めようと思った。」と答えてくれました。

松井彰大さん

「オーストラリアに来て自分が変わったと思うことは何ですか」という質問に対して、「ネガティブ思考からポジティブ思考に変わりました。それは、オーストラリアが失敗を許容してくれる国だったからです。」と話してくれました。

## V 海外研修を終えて

初めての海外研修であり、右も左も分からなかった初日の自分と比べて、今の自分は心が倍以上にたくましいものになっていると思います。私は、今までずっと日本にいたので、自分の周りで話している言葉が全て英語だという事実で少しの緊張と大きな期待が膨らみました。

しかし、実際に話してみると、最初はほとんど何を言っているのか分からず自分の無力さを感じました。でもそんな時、ホストファミリーや現地の方々は、怒ることもせかすこともなくゆっくり話を聞いてくれたので、落ち着きを取り戻すことができました。心に落ち着きが生まれたことで、前よりも英語を聞く力が身に付き、自然と聞き取る力もついてきました。また、全てが英語という環境の中で、知らなかった単語も多く吸収することができました。

ファームステイ先で育てた牛や作物から命をいただき食べたことで、命の大切さについて深く考えることができました。この研修は、私が将来に向けて一歩前進するための大きな糧となりました。



研修メンバー



グリーン島



キュランダ鉄道

Thank you for all the  
great memories



# オーストラリアレポート

No. 3 大曲中学校 時田 太輝

## I はじめに

僕がこの研修に参加したいと思った理由は三つあります。

一つ目は、英語を学びたいと思ったからです。僕は、英語の学習が一番苦手です。英語で会話することも苦手です。オーストラリアで現地の人達と英語で会話することで、英語で会話することに自信をもちたいと思いました。英語に興味をもち、英語が好きになり、英語の成績を上げたいとも思いました。

二つ目は、海外に行くことで考えを広げたいと思ったからです。僕がいつもいる、家と学校の生活から離れて、大きな世界を目にして考えを広げ、将来の自分の生き方に生かしたいと思ったからです。

三つ目は、親から離れて生活することで、自分のことは自分で行い、自立心が芽生え、自分を成長させられると思ったからです。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『どうすれば大仙市の魅力をPRできるか』

### 2 設定理由

僕が住んでいる大仙市は、人口約8万人の、自然が豊かで四季の移り変わりが楽しめるところです。春には桜が咲き、市内のいろいろなところで花見ができます。夏には、大曲の花火大会が開催され、全国から多くの人たちが訪れます。秋には木々の葉が紅葉し、山の風景がきれいです。冬には雪が降り、スキーや雪遊びができます。

大曲の花火が有名ですが、他にも祭りや伝統行事などがたくさんあります。それらは、地域に守られ、大切にされています。しかし、それらの祭りや伝統行事は、他の地域の人達にあまり知られていないと感じます。それらのよさを積極的にPRし、他の地域の人がたくさん大仙市に訪れてほしいと考え、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- ・オーストラリアは、多くの国に観光の呼びかけをしている。
- ・オーストラリアは魅力あるまちづくりをしている。

### 2 検証方法

- (1) 観光名所や体験できる施設・場所を探る
- (2) 魅力を伝える方法を探る

### 3 調べた内容

#### (1) 観光名所や体験施設・場所

##### オーストラリア

ケアンズ	ファームステイを受け入れています。広大な土地で現地の人たちの生活を体験することができます。現地の子ども達との触れ合いもできます。
グリーン島	海がきれいで、シュノーケリングや船に乗ることができ、マリンスポーツを楽しむことができます。
ワラビーとコアラとの触れ合い	動物園でワラビーとコアラと触れ合うことができます。5mくらいのワニもいます。コアラやワラビーと写真を撮ることができ、思い出に残すことができます。
キュランダ鉄道	オーストラリアの自然を見ながら、鉄道ができた歴史を学ぶことができます。
アボリジニの文化を体験	アボリジニのダンスを見ることができます。狩りの様子や狩りに使われた道具を見ることができます。ブーメラン投げを体験することができます。

##### 大仙市

はなび・アム	「大曲の花火」の特徴を知ることができます。花火の様子を映像で見ることができます。
農業科学館	農業に関する昔の道具を見ることができます。温室では、いろいろな種類の植物を観賞することができます。
スキー場	大仙市には三つのスキー場があります。冬期間、スキーを楽しむことができます。
温泉	天然温泉が多くあります。近くに、公園やスポーツ施設がある温泉もあります。
各地域の名所	歴史的な名所が数多くあります。それぞれ、パンフレットがあります。イベントなども行われています。

#### (2) 魅力を伝える方法

##### オーストラリア

自然や伝統を生かした観光名所がたくさんあります。そして、そこに観光施設を作っています。また、そこで観光客が体験できるようになっています。長期間滞在できる魅力があります。

コアラやワラビー、アボリジニの商品がたくさんあり、お土産として人気があります。お土産店は、英語だけでなく日本語が通じる店がたくさんあります。

## 大仙市

「大曲の花火」をPRする「はなび・アム」を近年、設立しました。入場無料です。祭りや伝統行事を広報で知らせたり、ポスターを作成して学校や市の公共施設に貼ったりしています。スキー場は、大仙市の小中学生は無料でできるようにしています。

大仙市の名所を伝えるための「マップ」を作成し、市内の小中学生全員に配布しています。

## 4 考察

オーストラリアは自然が豊かです。自然を生かして、観光名所や体験型施設を作っています。そして、その名所や施設をPRしています。オーストラリアを訪れた人は、長い期間そこで楽しみながら過ごすことができます。また、ファームステイの受け入れもあり、人を呼ぶことができます。カンガルーやコアラ、アボリジニも有名で、それらの商品がお土産として多くあります。とても魅力的だと思いました。観光地には色々な国の人がいました。海外から観光客が集まるということが分かりました。

一方、大仙市は、観光名所が少なく、それに伴い施設も少ないと感じます。しかし、はなび・アムを作ったり、名所マップを作って小中学生に配布したり、魅力をPRしていることが分かりました。地域の祭りや行事に他の地域の人が参加するように、大仙市以外の人にもマップを配布できればいいと思いました。また、大仙市と言えば、「〇〇〇」といったキャラクターや商品、特産品があればPRできると思いました。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ体験

Gladys さん宅にファームステイをしました。父と母と娘の3人家族でした。とても親切で、温かい家族でした。僕の家族の写真を見せて、英語で会話しました。英語が通じてうれしかったです。広大な土地で牛を80頭飼っていました。近くで牛を見ました。草を刈ったり、にわとりにえさをやったり手伝いをしました。作ってくれたご飯で一番おいしかったのは、パンの間にトマト、ハム、レタス、卵を挟んだサンドイッチです。オーストラリアの家庭料理はとてもおいしかったです。僕たちが、お土産に持っていった稲庭うどんを料理したら、おいしいと言って食べてくれました。三日間、快適に過ごすことができました。感謝しています。



稲庭うどんを食べる  
ホストファミリー



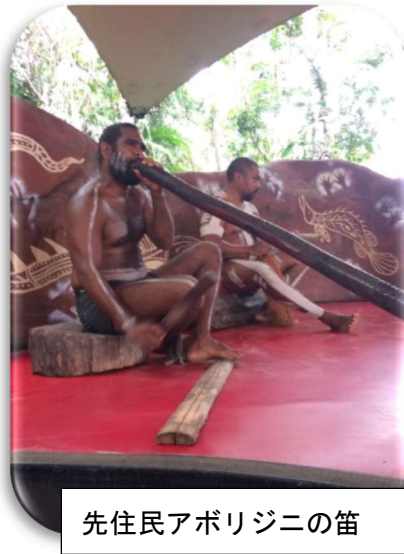
ホストファミリーに  
作った稲庭うどん



ホストファミリーが  
飼っている多くの牛

## 2 アボリジニショー ステージでおどりました

アボリジニとは、オーストラリアの先住民です。動物園の敷地内でアボリジニのショーを見ました。体に模様を描いていて、装飾をしていました。長い笛を吹いていました。初めて聞く独特な音でした。その笛に合わせてダンスをしていました。僕たちは、ステージに呼ばれ、三人でステージに上がり、一緒にダンスをしました。恥ずかしかったのですが、いい経験ができました。



先住民アボリジニの笛



先住民アボリジニのダンスショー



飛行機から見たグレートバリアリーフ

## 3 グレートバリアリーフの美しさ

グレートバリアリーフは、世界遺産に登録されている、世界最大の珊瑚礁地帯です。海の水は青色で透き通っていてとてもきれいでした。沖には、魚がたくさん泳いでいて、大きな魚や小さな魚まで見ることができました。

講習を受けた時に、飛行機から見ると海の様子が分かりやすいと教えてもらいました。帰りの飛行機から海を見ると、とてもきれいでした。

## V 海外研修を終えて

今回の研修で僕は、世界には様々な場所があり、そこに様々な人々が暮らしているということが分かりました。自分の住んでいるところから離れて他の地域を訪れ、大仙市のよさや他の地域のよさをそれぞれ知ることができました。大仙市をもっとよくしていく方法も考えることができました。

英語で会話できたことは、いい経験になりました。もっと英語で会話できればいいと思ったので、これからもっと英語の学習を頑張りたいです。

将来、またオーストラリアを訪れたいと思います。他の国にも行ってみたいです。今回の貴重な経験は、将来の自分にとってプラスになったと思いました。

# オーストラリアレポート

No. 4 大曲中学校 戸澤 菜月

## I はじめに

2020年1月4日、いよいよ僕の海外研修が始まりました。僕がこの研修に応募した理由は二つあります。

一つ目は、日本と環境などが異なるオーストラリアでは生活習慣や常識にどのような違いがあるのか気になったということです。

二つ目は、自分の英語力を試したかったということです。僕は中学校に入学する前から英語の学習をしていて、今まで学習してきた身についた英語力をどこかで生かせないかと思っていました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の伝統を世界にPRするにはどのような工夫が必要か』

### 2 設定理由

僕たちが住む大仙市には、大曲の花火や刈和野の大綱引きなど、様々な伝統があります。特に大曲の花火は日本中から観光客が来る有名なイベントだと思います。外国人観光客も見かけることがあります。しかし、大仙市には他にも素晴らしい伝統があるにもかかわらず、日本国内、そして、世界での知名度が低いというものが多いです。そこで僕はどうしたら大仙市の伝統を世界にPRすることができるのかと考え、今回の研究テーマを設定しました。



【大曲の花火】

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- さらにメディアを使い、PRできるのではないかな。
- 既存のPR方法を工夫することで、よりよいPRができるのではないかな。

## 2 検証方法

次のことについて調べることにしました。

- (1) オーストラリアではどのような伝統があるのか現地で聞いてみる。
- (2) (1) で調べた伝統行事がインターネットではどう PR されているのかを、大仙市の伝統の外国人観光客への PR 方法と比較する。大仙市の伝統はいろいろあるが、今回は大曲の花火、刈和野の大綱引き、太田の火祭り、鹿島流しの4つと比較することにした。

## 3 調べた内容

- (1) オーストラリアは建国してから 119 年と歴史が浅く、古くから続く伝統というものは少ないです。そのため今回はオーストラリア大陸に遥か昔から住んでいたアボリジニの伝統と比較することにしました。研修中に、シロアリに喰われて筒状になったユーカリの木を使って作る管楽器ディジュリドゥや、狩猟の際に使用したブーメランや槍など、様々なアボリジニ固有の文化があることを知りました。



【ディジュリドゥを吹くアボリジニの男性】

- (2) アボリジニは世界的に有名なため、彼らやその伝統についてまとめている日本語で書かれたサイトはたくさんありました。次に大仙市の伝統についてですが、大曲の花火は有名な伝統のため、外国人観光客向けのサイトもいくつかありました。それから国指定重要無形民俗文化財に指定されている刈和野の大綱引きも外国人観光客向けのサイトもありました。太田の火祭りの外国人観光客向けのサイトも見つけましたが、鹿島流しの外国人観光客向けのサイトは見つけることができませんでした。大仙市のホームページの英語版で少し紹介されていましたが、内容についてはほとんど説明がありませんでした。

## 4 考察

3で調べた内容から、大仙市の伝統を世界にPRするには、まず内容を知ってもらいたいと僕は考えました。そのため外国人観光客向けに大仙市の伝統について内容を詳しく、そして分かりやすくまとめたサイトなどを作る必要があると考えます。そうすることで、外国人観光客の動員数の増加が期待でき、大仙市の伝統を世界にPRすることができると思います。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ先で

今回僕がファームステイしたのは、マンガリーフォールズ・ストゥーデント・ビレッジから 15 km程離れた場所にある Gladys さん、Jack さん、Lara さん達の家でした。Gladys さんは僕達を牧場に連れていく前にマンガリーフォールズにある滝を案内してくれました。彼らの牧場では2匹の犬、1匹の猫、3匹の鳥、80頭の牛を飼育していました。僕達はホストファミリーに秋田県の郷土料理である稲庭うどんを作りました。作るのもとても難しかったですが、美味しいと言って喜んでもらったのでよかったです。



【ホストファミリーの Gladys さん】

### 2 ファームステイでの体験や経験

Gladys さんは僕達を Jack さんが運転するトラックの荷台に乗せて、牧場を案内してくれました。牧場の敷地内は急な坂が多く、激しくトラックが揺れましたが、Gladys さんが途中で降りて様々な物を紹介してくれたので、とても面白かったです。

僕がファームステイ中に一番衝撃を受けたのは、最後の日の出来事でした。Gladys さんが僕達を車に乗せて、彼女の友人の家に連れて行ってくれた時のことです。そこでは山羊を数匹飼育していて、Gladys さんは山羊を3匹、トラックの荷台に設置された檻の中に入れるのを手伝うために呼ばれたようでした。Gladys さんは飼育小屋にいる山羊を一匹選び両手を構えると思いきり山羊の角を掴みました。突然のことに山羊も驚き必死で抵抗し逃げようとしますが、彼女の友人が片方の脚を掴み、それを許しませんでした。一分程で、山羊は檻の中へ入れられました。これを見て僕は、牧場というのは命を育て、それをいただく場所だということを再認識しました。



【檻に入れられた山羊】

### 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

Q: オーストラリアに来て気付いた日本の問題とは？

A: 日本人は萎縮しがち、もっと積極的になったほうがいい。

Q：オーストラリアの特徴とは？

A：海外から様々な国籍の人々が集まって生活しているため、決まった常識というものがない。

Q：オーストラリアの印象的な伝統文化とは？

A：オーストラリアは元々イギリスの植民地だったため、歴史が浅く、伝統文化と言えるものはあまりない。

## V 海外研修を終えて

今回の研修は僕にとってとても貴重な経験となりました。僕はこの研修が初めての海外旅行でした。そのため研修が始まる前は不安でとても緊張していました。しかし研修が始まって、ホストファミリーや友達と過ごしている内に、自分の中にあつた不安や緊張が薄れていくのを感じました。オーストラリアの人々は日本人と比べてフレンドリーな人が多く、ファームステイ中に連れて行ってもらった町やキュランダ村などで、僕らに向かって挨拶をしてくれる人も多かったです。オーギーキッズもとても面白い子たちばかりで、話してとても楽しかったのを覚えています。研究テーマについての現地での聞き込みは、もう少し下調べをしておくべきだったと反省しています。しかし、ファームステイや現地で働く日本人との交流を通して、研究テーマの検証のための情報以上の多くのことを学ぶことができました。

今回の研修に参加させてくれた両親、そして色々な面で研修前から僕らをサポートしてくださった先生方には、感謝しかありません。本当にありがとうございました！



【袋に子が入ったカンガルー】



【グリーン島に向かう途中の景色】



【ファームステイ先で飼育していた牛】

このレポートを作成するにあたって、以下のサイトからフリー素材をお借りしました。

無料の写真素材はフリー素材のぱくたそ

<https://www.pakutaso.com/>



# オーストラリアレポート

No. 5 大曲中学校 長澤 由衣

## I はじめに

私がこの研修に参加したいと思った理由は、二つあります。

一つ目は、海外の伝統や文化に興味をもっていたので、オーストラリアの伝統文化についても学びたいと思ったからです。私は学校の部活動で茶道を習っています。茶道を通して日本の伝統文化のすばらしさを学びました。オーストラリアの伝統文化はどのようなものか、そこから何が感じられるのか、実際に見たり聞いたりして知りたいと思いました。

二つ目は、好きな英語をもっと学びたいと思ったからです。英語で話したり、交流したりして、英語への向上心を高めたいと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の伝統文化を知ってもらうにはどうすればよいか？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市には、大曲の花火やぼんでんなど、たくさんの伝統文化があります。それらは国内でも有名です。しかし世界的には知名度が低く、知らない人が多いと思います。この研修を機に大仙市の伝統文化を世界に発信するにはどうすればよいか考えてみたいと思い、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- ・オーストラリアでは、地域ごとに伝統的なものを独自の広告やインターネットを活用してPRしているのではないかな。
- ・伝統文化を守っていくために、オーストラリアの観光資源を使って何か取り組んでいるものがあるのではないかな。

### 2 検証方法

- (1) ホストファミリーに大仙市の伝統文化と日本の伝統文化について紹介し、感想や意見を聞く。
- (2) ホストファミリーや現地の人にオーストラリアの伝統文化について聞き、観光地を回ったとき、まねできるようなPRの方法を探す。

### 3 調べた内容

- (1) 私たちは、ホストマザーに大仙市の伝統文化として花火などを紹介しました。花火、秋田犬、そして、かまくらなどの写真を見せながら紹介すると、ホストマザーGwenさんは、花火について一番興味をもってくれました。やはり、大曲の花火には魅力があるのだと思いました。次に、日本の食文化として「もち」と「お茶」を紹介しました。



苦い顔の Gwen さん

私はお茶を点でて、Gwenさんに飲んでもらいました。日本から茶道具を持って行き、お点前を披露しました。お茶は苦かったようで「How was ocha?」と聞いたら「bitter」と渋い顔をしていました。また、茶器に興味があったようで、お茶碗について質問をされました。

- (2) 最後にオーストラリアの伝統文化について尋ねました。

教えてくれたのはイースターの日とバーベキューの日についてです。イースターの日は3月と4月の満月の日に行われ、春を祝う行事だそうです。1月26日は、オーストラリアでは国民の祝日で、その日はみんなでパーティーを開き花火や歌で盛り上がるそうです。

ステイ先では、ホストファミリーと夜にバーベキューをしましたが、バーベキュー自体が伝統文化だということに驚きました。

他に、インターネットで調べたところによると、全国一斉に休みになる祝祭日が年間9日間と少ないオーストラリアでは、貴重な夏の休日となることからバーベキューをしながら家族や友達とゆったり楽しむ人が多いようでした。

さらに、先住民であるアボリジニについて質問したところ、Gwenさんは家系ではないからあまりよく分からないと話していました。

### 4 考察

私は、オーストラリアのすべての伝統文化は、日本と同じように昔から受け継がれてきたものだと思っていました。しかし、現地で活躍している日本人の中村さんが話してくれたことは、私の考えと反対でした。伝統文化は植民地時代にほとんどイギリスに奪われ、先住民であるアボリジニも文化を失い、昔から残っているものといえばブーメランしかないことにショックを受けました。オーストラリアのほとんどの伝統文化は、イギリスの植民地時代にイギリスによって作られた文化だそうです。失われたものだからこそ、アボリジニの文化を大切にしなければならぬとインタビューで中村さんが語ってくれました。

200年という短い歴史の中で、伝統文化を失ったオーストラリアの人々の悲しみを私は想像することはできません。日本とオーストラリアのそれぞれの感じ方は違うけれど、私たちは、祖先が築いた独自の文化や大仙市の伝統文化を大事にし、継承していく必要があると思いました。また、それをPRするためには、「はなび・アム」のような大仙市の伝統文化を紹介する施設をもっと増やしたらよいと思いました。動物園でアボリジニが私たちに踊りを披露してくれたように、花火に限らず大仙市の伝統文化を披露するような機会をつくることで、日本人以外でももっと楽しめるような街づくりをする必要があると思いました。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

私はホストマザーの Gwen さんとホストファザーの Bruce の家にファームステイしました。気さくな方たちで毎日が楽しく、料理もとてもおいしかったです。

<一日目>

ミラミラフォールズという滝に行った後、公園にピクニックをしにいきました。Gwen さんとみんなで大きなハンバーガーを作り、自然の中で食べた昼食はとてもおいしかったです。公園に遊びに来ていた現地の子どもたちと仲よく写真を撮ることもできました。

夜にはラザニアをみんなで一緒に作り、ステイ先の敷地を Gwen さんに案内してもらいました。



<二日目>

朝食後、燃やすための木の枝を拾いました。昼は Gwen さんが作ってくれたサンドイッチを食べ、デザートにスイカを食べました。午後は、マザーに伝統文化を紹介するために、もちやお茶を振舞いました。もちはおいしいと好評でしたが、お茶は好みではなかったようで残していました。

夕食を食べる前に家の手伝いをしました。毛布を真空パックに詰めたり、Bruce さんがのこぎりで切った太い木の枝を運んで燃やしたりしました。疲れましたが、キャンプファイヤーみたいで楽しかったです。

<三日目>

ショッピングに行きました。ホームセンターやスーパーマーケットに行くと、全ての物が日本と比べて大きく、そのサイズ感にとっても驚きました。昼はクロコダイルがいるという川の近くでフィッシュアンドチップスを食べました。オーストラリアの自然を感じながらの昼食は格別においしかったです。

夜は、Bruce さんが大きな肉のかたまりを焼き、みんなでバーベキューを楽しみました。

### 2 オージーキッズとの交流

マンガリーフォールズでオージーキッズと交流をしました。私たちは二人羽織を披露し、みんなと一緒に「パブリカ」を踊りました。オージーキッズも二人羽織に挑戦したり、オーストラリアのダンスと一緒に踊ったりしてくれました。言葉が通じなくても楽しいことを一緒に共有すれば、通じ合えるものだと分かりました。

また、アーチェリーにも初挑戦しました。矢を放つのが難しかったけど3回目での的に当たった時はうれしかったです。

夜に見に行った土ボタルも星のようにきれいでした。マンガリーフォールズで過ごした1日はとてもよい思い出になりました。

### 3 キュランダでの動物園

私がキュランダで一番驚いたところは動物園です。最初入ったときは、日本にもある普通の動物園だと思いました。ここは、オーストラリアの固有動物だけがいる動物園でした。タスマニア・デビルやコヨーテを初めて見ましたが、日本と同じように動物を放し飼いにし、実際に触れることができるという工夫がありました。また、アボリジニのダンスショーでは、守り神である蛇を手で表現する、「沈黙の蛇」というダンスが印象に残りました。さらに伝統文化のブーメラン投げも体験できました。



アボリジニのダンス

### 4 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

Q 外国で働こうと思った理由は何ですか？

A オーストラリアで、人と違った知識を生かせるから。

Q コミュニケーションをとるときに大切なことは何ですか？

A 委縮しないで、とにかくまずは話してみる。

Q 日本を海外に発信するにはどうすればいいと思いますか？

A 自分自身が大仙市をよく知り、メジャーなところで大仙市を紹介してみる。

3人の方々が教えてくれたことは、海外で生活する以外でもとても大事なことで、これからの中学校生活にも生かしていきたいです。

### V 海外研修を終えて

私は、今回のオーストラリア研修で『英語をたくさん話すこと』と『いっぱい楽しむこと』を目標にしていました。最初は緊張して、うまく英語が話せないのと同時に聞き取れなくて、とても悔しい思いをしました。しかし、ホストファミリーが熱心に聞き取ろうとしてくれたり、友達がサポートしてくれたり、単語だけでも相手に伝えようとするのが大事なことなのだと思います。私は、英語がもっと好きになり、もっと英語で自分の思いを表現したいと思うようになりました。

グリーン島の海はとてもきれいで、初体験のシュノーケリングもとてもいい経験になりました。また、6日目にキュランダ鉄道から見た景色はとても印象的でした。どこまでも広がる、のどかな自然と町並みは言葉が出ないほどすばらしかったです。この7日間、私は貴重な体験をさせていただき、充実した日々を送ることができ本当に楽しかったです。これも海外でサポートしてくれた牛木先生、喜香先生、飛田さん、そして行くことになってから応援し支えてくれた家族のおかげです。本当にありがとうございました！

# オーストラリアレポート

No. 6 大曲中学校 藤原 美奈海

## I はじめに

私は、この海外研修に参加して、日本だけではなく海外まで視野・視点を広げることや、日本では見ることができなかった部分に触れていろいろな体験をすることにより、自己成長をしたいと思いました。研修に行くことが決まった当初は不安でいっぱいでしたが、研修の日が近づくにつれて、期待で胸がいっぱいになりました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

**「大仙市の健康寿命を長くするにはどうすればよいか」**

### 2 設定理由

私はこの研修に参加する前に、オーストラリアは健康寿命が長いと聞いたことがありました。それに比べて、秋田県、そして大仙市は健康寿命が短いのではないかと推測しました。そのため、健康寿命を延ばす取組をもっとする必要があると私は考えました。どうすれば、健康寿命を延ばすことができるのか、また、オーストラリアの健康に対しての意識は大仙市とどのくらい差があるのかを調べたいと思い、この研究テーマにしました。

## III 研究テーマについての予想、検証、まとめ、考察

### 1 予想

オーストラリアは世界的にみて食料自給率が高いことから、家庭菜園などをする人の割合及び食に対する意識が高いと推察されます。また、オーストラリアは自然に囲まれた地形でストレスを感じにくい環境というところ、またベジタリアンが日本より多く存在することが関係しているのではないかと推測しました。

### 2 検証

(1) インターネットで調べる。

【大仙市】

市の取組の一つに「健康大仙 21 計画」というものがありました。この取組は健康に生活でき

る期間を延ばすために策定した取組です。7つの分野に分かれており、長期計画で進められています。

#### 【オーストラリア】

「health star rating」は体によい食品なのかどうかを栄養など全てを含めて判断し、「星の数☆☆☆」で表示する取組です。星で分かりやすく表示されているため、忙しくても素早く簡単に他の食品と比較することができます。

#### (2) インタビューで調査する。

##### ●ファームステイ先でインタビュー

Q What are you doing for your health ?

A I'm trying to be careful about foods.

Q Does your town have any health seminars ?

A There are yoga seminars in this town.



### 3 まとめ

オーストラリアは日本に比べて健康に対する意識が高く、食や健康に気を付けていることが分かりました。また、オーストラリアは健康に対しての意識を少しでも高めてもらうため、日本よりも分かりやすく簡単に栄養表示をしていることが分かりました。オーストラリアは日本と違って健康に対しての意識を高めようと小さなことでも取り組んでいて、とても意識が高いと感じました。また、ステイ先のKatrinさんの料理の手伝いをした時に、毎回毎回バランスよく食材が使われていました。日本では、なかなかここまで毎日意識するのは難しいと思うので、料理の手伝いをするたびに感心していました。

### 4 考察

大仙市の健康寿命を長くするためには、まず食に対しての意識を高めることが大事だと考えました。なかなか難しいことだとは思いますが、オーストラリアの簡単な栄養表示のように、野菜を毎食取り入れやすくするなど、小さなことから始める姿勢をしっかりと見習うべきだと思います。また、無理なダイエットや人間関係などからくるストレスも問題だと思います。秋田県は自殺率が全国的

にみて高いので、もう少し相談しやすく、何でも打ち明けられるような環境にし、ストレスを溜め込まないことが必要です。健康寿命を延ばすために、健康に関心を持ち、規則正しい生活、塩分を摂り過ぎない、野菜を毎日摂るなど、これから自分も意識していきたいと思いました。

## IV エピソード

### 1 日本食を作ってみました！



茹でている大量のそうめん



ホストファミリーに作ったそうめん

ホストファミリーを喜ばせたいと思い、みんなでそうめんを作りましたが、作り過ぎてしまいびっくりさせてしまいました。しかし、「おいしい！」と言って食べてくれたので作ってよかったし、とても嬉しかったです。

### 2 オージーキッズとの交流

最初はとても緊張していたので仲よくなれるか不安でした。しかし、話してみると皆がとてもフレンドリーで明るくて親しみやすかったです。ダンスや二人羽織を披露した時、皆が笑顔で見られて嬉しくなり、また、楽しむことができました。この交流を通して、もっと英語を上手に話せるようになりたいと思いました。



オージーキッズとの交流

### 3 キュランダ鉄道と美しい景色



駅に着いて、キュランダ鉄道を見た時、すごくレトロで、「早く乗りたい！」というワクワク感が一気に増しました。そして、乗車してみると列車から見える景色は一段と美しく、全てが絶景でした。また、オーストラリアに行く機会があればもう一度乗ってみたいです。

## V 海外研修を終えて

オーストラリアに到着した時、あまり実感がありませんでした。「ここ、本当にオーストラリア？」と何度も思うくらいでした。ですが、一日目、二日目と日が経っていくうちに、「ここは、オーストラリアだ」とだんだんと実感し始めて、強く実感したころには、あっという間に最終日でした。私はこの研修で進んで話すという積極性や、最初から「絶対無理」と決めつけないチャレンジ精神など、様々なことを学びしっかり吸収することができました。私は、今までネガティブ思考になり、諦めてしまうことがあったけど、これからはポジティブに考えて進んで挑戦したいと思います。

この研修を通して学んだことを、これからどんどん生かして、成長した自分を見せていきたいと思っています。この研修に参加することができて、本当によかったです。これから、家族や地域に恩返しをしていきたいです。本当にありがとうございました。



I want to visit again!

Thank you, Australia!



# オーストラリアレポート

No. 7 大曲西中学校 山崎 由依

## 1. はじめに

5年前、このオーストラリア研修に私の姉も参加させていただきました。研修から帰ってきた姉が、オーストラリアと日本がいかにか違うのかを話してくれたことで、自分もその違いを、実際に現地に行って体感したいと思うようになりました。

また、幼いころから英語教室に通っており、中学校でも英語の学習に力を入れているので、研修を通して自分の英語の力がどれくらいなのかを試してみたいと思いました。

## 2. 研究テーマの設定

研究テーマ：**世界にアピールできる秋田の観光地は？**

<理由>

オーストラリアと言えば、すぐに豊かな自然やエアーズロック、グレートバリアリーフ、コアラ、アボリジニなど、様々なことが頭に浮かびます。さらに、日本と言えば、こちらも確かに独自の文化や四季の豊かな自然が思い出されます。

では、秋田・大仙と言えばどうでしょう。秋田には大曲の花火や角館の武家屋敷などがありますが、世界的に有名かといえばそうでもありません。私は14年間秋田で生まれ育ちましたが、「**秋田県や大仙市の観光地がもっとほかの県や海外の方々にも伝わればいいのに**」と感じることが多々ありました。秋田や大仙の魅力をまだ知らない人が多いと思います。

そこで、今回は海外の人が興味をもつ観光とはどういったものかを、秋田県の四つのトピックを選んで調べることにしました。

またオーストラリアの観光業について学び、そこから今後の秋田県の観光のPR方法について考えようと思いました。

## 3. 研究方法

- ① 事前に秋田県の四つのトピックについてリサーチし、紹介するポスターを作る。

大曲の花火、旧池田氏庭園、なまはげ、あきたこまちの四つのトピックについて、どれが一番興味深いか調べるための街頭調査の用紙を作成する。



秋田県の観光を紹介するポスター  
“Which of these are you interested in?”  
興味のある観光に○をしてもらいました

- ② ショッピングモールにて街頭調査を行う。
- ③ オーストラリアの観光業について体験する。
- ④ 考察する。



た。マクドナルドのハンバーガーMサイズがLサイズくらいあった。

- ④ なまはげについて、一番票が入らなかったのは、調査の用紙の写真が原因だと思う。なまはげの写真は誰が見ても怖く、『伝統的な秋田の文化である』という説明だけでは、会ってみたいと思う人はあまりいないだろう。また、『鬼のような姿で包丁を手にしているにも関わらず、本当は神様』という説明が少々複雑すぎるようにも感じる。自分の現在の英語の力では難しいかもしれないが、なまはげの伝統を正しく伝えるためにもっと詳しく説明したいと思った。

#### <オーストラリアの観光業について>

- ① ポスターの色合いについては、やはり派手な方が有利なのではと考えた。しかし、宣伝対象の事物のイメージを損なわないようにすることも重要だと思うので、バランスが難しいと思った。
- ② 様々な言語の表記がある看板は、非常に大切なものであると思った。日本語が書かれているだけで、オーストラリアにいても安心感があつた。日本でももっと、このようなグローバルな看板が増えるといいと思う。
- ③ アボリジニの方たちとは少し違うかもしれないが、日本には舞妓さんたちがいる。両者とも昔の文化を今に伝える役割を果たす大切な存在なのではないか。しかし、前者はショーの仕方などから、非常にオープンな継承方法をとっている。秋田舞妓さんも、もう少しオープンな活動をしてみてもよいのかもしれない。

## 7. オーストラリアでの思い出

### (1) ファームステイ

ファームステイ先ではホストマザーと一緒に三日間過ごしました。三日間でファームのお仕事もたくさん体験させていただきました。牛や馬・やぎなど、動物たちに毎日餌やりをするのが楽しかったです。餌やりだけでなく、牛舎の敷き藁の交換などファームの仕事はとても大変で、毎日こなしているマザーは本当にすごいと思います。日本からのお土産として習字の作品(現



食間のはちみつ  
シリアル

地で書きました。)と、緑茶、折り紙、キツネのお面、扇子を持っていきました。喜んでもらえて嬉しかったです。三日目には、観光やショッピングでたくさんの場所に連れて行ってもらいました。私は特にショッピングが楽しかったです。ドライブに行った時、牧草地にたくさんの牛がいて驚きました。とても充実した三日間でした。

おみやげを喜ぶホストマザー



### (2) オージーキッズとの交流

オージーキッズとの交流はとても楽しかったです。夕飯を食べながら英語で話したり、アーチェリーをしたり、一緒にダンスを踊ったりしました。また、演し物の二人羽織とみんなで踊ったパプリカのダンスもとても盛り上がりました。

オージーキッズたち



### (3) グリーン島

私は初めてシュノーケリングを体験しました。グリーン島の海はとても青く澄んでいて、ずっと見ていられそうでした。また、グラスボトムボートに乗り、美しいサンゴ礁や魚を見ることができました。日本の海と違って色が暗い青ではなく、明るいエメラルドグリーンのような色でした。



グラスボトムボートから見た海には魚影がいっぱい

## 8. 研修を終えて

今回のオーストラリア研修では、たくさんのことを学ぶことができました。ファームステイをはじめ、日本ではできない貴重な体験ができました。14年間も日本から出たことはありませんでしたが、今回の海外派遣で私の視野が大きく広がり、価値観が変わりました。新しい友達やホストファミリー、オーギーキッズとの出会いは私が変われる「よいチャンス」になったと思います。**初めて会う人でも積極的に話しかけると心が通じると分かったので、もっと積極的にコミュニケーションしよう**と思いました。

テーマ研究では、自分の予想と違い驚きました。それもまた、一つ学んだことだと思います。アンケートで一番人気だった「旧池田氏庭園」に私は幼少の頃1度行ったことがあります。改めて訪問してみたいと思いました。オーストラリアは自然が豊かで、日本とは違うよさがたくさんありました。バスで移動中に野生のワラビーに遭遇しました。

はじめのうちは緊張してとても不安でしたが、ホストマザーに思い切って話しかけました。すると、相手は私の拙い英語を汲み取って理解してくれました。**私は英語が通じてとても嬉しかったです。日がたつにつれて積極的に英語が話せるようになっていました。**また、現地の方々はとてもフレンドリーで話すのがとても楽しかったです。オーストラリアにいる間は見るもの聞くもの全てが初めてで楽しくて、あっという間に時間が過ぎていました。私が気付いた時にはもう終わって日本に到着していました。楽しい時間というものあっという間に過ぎてしまうものなんだなと思いました。とても素敵な思い出ができました。

オーストラリア研修に参加させてくださった家族の皆さんや教育委員会の皆さん、学校の先生方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

# オーストラリアレポート

No. 8 平和中学校 久米川 華穂

## I はじめに

2020年1月4日、待ちに待ったオーストラリアでの海外研修が始まりました。初めてのオーストラリアでの生活に以前から胸を躍らせていました。

私がこの研修に参加したいと思ったのは、ALTの先生が、故郷の様子を授業や日常会話で話しているのを聞いて、オーストラリアに興味をもったからです。

また、個人的に興味のあったSDGsについてオーストラリアにしかない取り組み方があればそれを知りたかったからです。そして今後のSDGsに関する活動に役立てたいと思いました。

SDGsに限らず日本とは違う環境に行くことで自分のなかで新しい引き出しを作り、広い視野で物事を様々な面から見られるようになりたいと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『SDGsを利用して大仙市の魅力をPRするには?』

### 2 設定理由

以前からSDGsに興味があり、調べたり講演活動を行ったりしていました。SDGsはこれからの社会に必要なものになってきます。しかしSDGsを知っている人や取り組んでいる人が圧倒的に少ないのが大仙市の現状で、改善したいと思っている部分もありました。そこで大仙市のこれからの課題である町の活性化と、SDGsを結び付けて私なりに調べることにしました。

私たちの住む大仙市は、自然が豊かで、「大曲の花火」や「刈和野の大綱引き」など日本や世界に誇れる行事がたくさんあります。また、温泉やスキー場なども多くあり、観光客を増やすには十分です。しかし、PR不足や高齢化などが原因で観光客が少なく、海外からの観光客も都心に行ってしまうのが現状です。しかし、同じように自然豊かで都心に近くないケアンズでは、国内外から多くの観光客が来ています。そこで、観光客の増加のために取り組んでいることを知り、そこに世界のこれからの目標であるSDGsを結び付けるといいと思いました。

## Ⅲ研究テーマについての予想，検証方法，調べた内容，考察

### 1 予想

オーストラリアでは連日，観光客が絶えません。そこでオーストラリアが観光客を増やすためには，どんなことに取り組んでいるかを調べることにしました。

オーストラリア（ケアンズ）にはたくさんの観光資源があるのでそれについてPRをすることと，SDGsの11番「よりよいまちづくりを」に取り組むことで観光客の増加につながっているのではないかと私は考えました。

### 2 検証方法

主にこの二つの方法で調べることにしました。

- (1) 実際に観光地に行き，調べる。
- (2) 現地の人にインタビューする。

### 3 調べた内容

- (1) 大仙市とオーストラリアの観光業に関する違い
- (2) オーストラリアで取り組まれているSDGsについて

### 4 考察

ホストマザーの協力もあり，様々な観光地を巡りそこで様々なことを学ぶことができました。ホストマザーと一緒にいった観光名所は自然を生かしたものが多く，そこは，大仙市に近いと感じました。でも，大仙市よりもはるかに人が多く，にぎわっている様子でした。オーストラリアの歴史や自然を生かした資料館のようなところにも行きました。

これらのことから，オーストラリアはありのままの状態でも観光客を増やしていることが分かりました。町の発展が町の活性化に繋がると考えていたので，このことはとても印象的でした。

次にSDGsについてです。この研修で印象的だったのは，「自然との共存」をしていたことです。日本のニュースも賑わせていた大規模な火事がおきていました。その火事から動物を守るための募金活動が多く行われていました，公園に行った時に自然を守るために多くのルールが細かく記されていて驚きました。日本は，環境問題が大きな課題の一つだったため，学ぶことが多くありました。

このようなことから，その地域の特色ある場所や文化を象徴する行事，食べ物などを広く，ありのままにPRすることで観光客の増加につながると思いました。また，その時にルールを細かく決めることで，私たちの誇りでもある名所の保全につながると思いました。

## Ⅳエピソード

### 1 日本文化の象徴 書道を披露

ホストマザーへのお土産として、書道を書きました。ホストマザーの名前の「Tania」に漢字をあてて書きました。

悪いものを流すという意味の「汰」、優しさや思いやりの意味をあらわす「仁」、そして私たちからの気持ちということで「愛」で「汰仁愛」にしました。

Taniaさんは、夫の分も書いてほしいと言ってくれました。

日本の文化に親しんでもらうことができたと思います。また、日本特有のお土産として、お面や箸、折り紙、日本茶などを持っていきました。とても興味をもって、喜んでくれました。



ホストマザーのTaniaさん

### 2 グリーン島で自然の大切さを学ぶ

私たちは、自然の豊かなグリーン島というところに行きました。前日から、講習を受けるなど、準備を念入りに行っていてとても楽しみでした。エメラルドグリーンの海がキラキラと光っていました。とてもきれいでした。ガラスボートでサンゴなどの観察をしました。海が透けて見えてとてもきれいでした。また、魚たちもたくさん見られました。魚は日本ではあまり見られない、鮮やかな色をしたものが多くとても新鮮でした。

前日の講習では、オーストラリアのサンゴが白化していることや、それを防止するためにやっていることなどを聞いて、あのきれいな海はたくさんの人たちの努力で守られているということが分かりました。

### 3 日本人にインタビュー



森を守るために細かく書かれたルール

最終日に3人の日本人にインタビューを行いました。現地に住んでいる方からたくさんのことを学ぶことができました。特に印象的だったのは「オーストラリアの自然」についてです。オーストラリアにある国立公園では、木を切ったら罰金を科するなど、自然を守るためのルールがとても厳しいことや、現地で獣医をされている方からは、動物虐待な

どをなくして動物と共存する仕方について学びました。

私は将来、留学も視野に入れているため、早くからオーストラリアに住み始めた 3 人のお話は、研究テーマに直接関係のない分野でもいろいろなことを学びました。

例えば「本当に英語を勉強していかないと苦労する」ことや「英語はこれからの社会でもっと必要になってくるだろうから今から勉強しておいたほうがいい」など、これからの人生に役立つものばかりでした。

## V 海外研修を終えて

### (1) 自分自身のボキャブラリーの少なさ

ファームステイ先のマザーは、とても積極的に私に話しかけてくれました。しかしマザーの英語が聞き取れなかったり、話したいことを思うように口に出せなかったりと、少しコミュニケーション能力に未熟さが出てしまったと思います。今回のこの経験を生かして、もっとリスニング力を高めるとともにボキャブラリーを増やしたいと思います。また、積極的にALTにも話しかけて本場の英語に慣れたいです。

その一方で、よかった点もありました。それは、英語を読む力です。メニューや看板、ルールが書かれた紙などを見て、すぐに読み理解することができました。日頃のリーディングの力が役に立ったと思います。その中でも分からないと感じた単語も多くあったので、これからの学習に役立てたいです。

### (2) 視野を広げることの楽しさ

今回の研修では、初めてオーストラリアに行きましたが、とても充実した時間になりました。日本と違う感じ方、考え方に戸惑ったことも少しありましたが、それでもとても楽しく有意義な研修となりました。オーストラリア研修では、自分が想像していた以



オーストラリアの海

上に視野を広げ、新たな考え方を知ることができたと思います。出発前に立てた目標のように様々なことにチャレンジすることができました。そこからいろいろなことを学び自分を成長させることができたと思います。

人生の中でかけがえのないものになったと思います。



# オーストラリア研修で学んだこと

No. 9 西仙北中学校 佐々木 四季

## I はじめに

私は将来、雑誌の編集者になり、世界中の人を楽しませられるようになりたいと思っています。世界の人と関わるには、英語力とコミュニケーション力を高める必要があります。今回の研修はこれらの力を試したり、さらに高めたりできるいい機会になると思い、参加しました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

#### 「日本の音楽・芸術の知名度を世界に広めるには」

### 2 設定理由

私は6歳からタップダンスを習っていて、音楽を聴いたり歌ったりすることが大好きです。特に日本の歌舞伎や能などの独特な言い回しに不思議な魅力を感じています。歌舞伎は400年以上、能は1000年以上の歴史をもっています。日本は世界と比べると全体的に歴史が長いです。そこで、これらのよさをもっと多くの人に知ってもらいたいと考え、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマの予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

日本文化（音楽・芸術）を世界に広めるために私たちができること

- ① 日本文化を紹介する内容の動画や記事をつくり、SNSなどで発信するとよいのではないか。
- ② 秋田に住む外国の方を対象とした交流会を企画したらよいのではないか。

### 2 検証方法

- ① 歌舞伎や能などの日本文化について詳しく調べる。
- ② アボリジニのダンスや楽器について詳しく調べる。
- ③ ①と②それぞれのよさを知る。
- ④ 実際に外国で日本文化を紹介をしている人に話を聞く。

### 3 調べた内容

- ① 歌舞伎の特徴
  - ・日本独自の演劇で2009年にユネスコ無形文化遺産に指定される。
  - ・日本舞踊や三味線、狂言など日本の伝統文化的要素を組み合わせ構成される（総合芸術）。
  - ・現代風の演出「スーパー歌舞伎」も人気（「ワンピース」など）。
- ② 能の特徴

- ・歌い舞う音楽劇で1300年前に中国から「散楽」として伝わる。
- ・能面と呼ばれる仮面をつけて演じる。

③ アボリジニのダンス・楽器の特徴

- ・ディジュリドゥ (Didgeridoo) と呼ばれる楽器に合わせて様々なダンスを踊る。
- ・ディジュリドゥはシロアリが食べたことで中が空洞になったユーカリの木でできている。
- ・世界最古の管楽器

④ それぞれの長所

- ・歌舞伎のよさ…派手な衣装、大げさな動作が面白い。昔の人の生活や風俗について簡単に知ることができる。
- ・能のよさ…面、動作、台詞、音楽と限られた情報源の中で自由に想像してストーリーを作ることができる点。
- ・アボリジニのダンス・楽器のよさ…現代では珍しい原始的な点 (格好や楽器など)。手を広げて威嚇するポーズなど全体的に迫力がある。

## 4 現地で活躍する日本人へのインタビュー

Q：日本文化を紹介するうえで心がけていることは何ですか。

A：オーストラリア（現地）の人の視点で見ること。相手に分かりやすく伝えることが大事。

Q：現地で開いている折り紙教室、和太鼓演奏にはどれくらいの方が集まりますか？

また、どれくらいの年齢層の方が多ですか。

A：折り紙教室は6人くらい。少人数でやる方が教えやすい。和太鼓はそのときによる。

少し前に行われた餅つきには60人が集まった。子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が来るが、特に親子連れが多い。

Q：折り紙教室などの宣伝方法には何を使用していますか。

A：Facebook やEメールなどのSNS。特にEメールは送りたい人に送れるから便利。

Q：日本文化のよさを伝える楽しさは何ですか。

A：現地の人の新鮮な反応。私たちにとっては普通のことでも現地の人には面白いことになる。特に子どもの反応が大げさで面白い。

Q：日本文化をアピールする際に大切にしていることは何ですか。

A：体験した人や、現地の人リアルな声。よいことも、悪いことも関係なく全て生の声を届けること。

有効的な宣伝方法として、SNSを使うことがよいと思いました。その際にはリアルな反応を大切にし、相手の立場に立って考える必要があると思います。また、ただ紹介するだけでなく、一緒にやってみたり、現地の人々の反応をみたりして自分も楽しむことが大切なのだと思います。

今回インタビューを受けてくださった皆さんは「日本人はもっと気楽にしたほうがよい。」とおっしゃっていました。「きちんとするのも気持ちいいけれど、余計なプレッシャーになるよ。」というお話を聞いたとき、私は「枠からはみ出してもいいんだ。」と少し気持ちが楽になりました。ユーモアとちょっとした気楽さが外国の方と上手くやっていく際に必要なのだと思います。今回、貴重なお話を聞くことができ、日本人がもっと大切にすべきことに気付くことができ、よかったです。

## 5 考察

日本文化を世界に広めるには、自分で見たり、感じたりしたことを直接伝えることが大切だと思いました。今はインターネットを使って何でも簡単に調べることができます。しかし、実際に行ってみないと分からないことや気付けないことはたくさんあります。例えば、オーストラリアには日本では馴染み深いお米やお茶がありませんでした。また、いつも 30 分使っているシャワーが 3 分しか使えませんでした。話は聞いていましたが、いざそのときになるとやはりとても困ってしまいました。このように現地に行ってみたからこそ知ったことがたくさんあります。そのたびに、やはり自分の目や肌で感じることは大事だと思いました。これからもそのことを頭に入れ、日本文化を紹介していきたいです。紹介については、少しずつコツコツと広めていくことも大切だと思いました。現地で活躍する方の中にも、少人数で行うイベントが多いという方がいらっしゃいました。その理由は、人数が多いと伝えたいことがちゃんと伝わりにくいからだそうです。確かにたくさんの人を集めても、一人一人にそのもののよさを伝えるというのは難しい気がします。まずは少ない人数から丁寧に日本のことを伝えていきたいです。

今回の研修で改めて日本のよさや普段使っている何気ないもののありがたさに気付くことができました。「やっぱり日本っていいな」と感じ、自分の国がもっと好きになれたことがうれしいです。これからも自信をもってオーストラリアの方々のように自国を愛し、自国のよさについて積極的に PR をしていきたいです。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

初日は慣れない環境への緊張と不安で話すことができませんでしたが、勇気を出して話をしていくうちに、ホストマザーやホストファザーの笑顔が見られて、だんだん話せるようになりました。その日は一緒に夕食のラザニアを作りました。見たことのない機械を使ってラザニアシートを作る作業を手伝いました。その後も毎日おいしい食事を出して下さってありがたかったです。二人とも少し日本語を知っていて「いただきます」や「ごちそうさま」という言葉を食事のときにいつも言っていました。また、ホストマザーは日本人の私より折り紙が上手で、手先が器用でした。私たちは「わらび餅」と「抹茶」でホストマザーをおもてなししました。わらび餅はとても気に入っていただきましたが、抹茶はやはり苦手だったようです。



写真 1 : ラザニアシートを作っている



写真 2 : 夕食のラザニア



写真3：ホストマザーに点てた抹茶



写真4：ホストマザーに作ったわらび餅

## 2 ファームワーク

私がお世話になったお宅ではネイチャーファームをやっていました。とても広いお庭で、お手入れが大変そうでした。私たちは庭に落ちている枝を拾って燃やす作業をしました。午前と午後を合わせて約3時間頑張りました。とても暑くて疲れました。毎日こんな仕事をしているホストマザーとホストファザーはすごいと思います。日本ではなかなかできない貴重な体験がたくさんできてよかったです。

## V 研修を終えて

私は、この研修を通して、完璧な英語を話すことよりもチャレンジして積極的に話してみることが大切だと感じました。ホテルの部屋に鍵を忘れたとき「キーイズインマイルーム！」だけで相手にちゃんと伝わりました。単語だけで伝わって少し驚きましたが、嬉しかったです。またコミュニケーション力も大事だと思います。どんなときでも笑顔でいれば、オーストラリアの方たちは親切に助けてくれました。はじめは外国の方に話しかけることが怖かったけれど、今は自分から話せるようになってよかったです。これからも積極性と笑顔を忘れず、いろいろなことに挑戦していきたいです。

今回私がたくさんのお話を学ぶことができたのは、このような機会を与えてくださった方々のおかげです。オーストラリア研修で得たことを将来に生かし、人の役に立てるように今後も努力していきます。本当にありがとうございました。

# オーストラリアレポート

No. 10 西仙北中学校 佐々木 莉帆

## I はじめに

私が今回の研修に応募した理由は二つあります。一つ目は、今回の研修をきっかけに自分の世界観を広げたいと考えたからです。日本では見ることのできないものや、日本にはない文化をもつオーストラリアでしか分からないことを知りたいと思ったからです。二つ目は、自分の将来の夢を見付けるためです。自分が将来就きたい仕事や、したいこと、目指したい人物像などをオーストラリアで見付けたいと思いました。さらに、英語でのコミュニケーションの取り方を学び、将来に生かしたいと思いました。

## II 研究テーマ、設定理由

### 1 研究テーマ

「日本とオーストラリアの自然災害への対策の共通点は何か？」

### 2 設定理由

最近、環境問題や自然災害が深刻化しています。例えば、異常気象や地球温暖化、大気汚染などが挙げられます。持続可能な社会を目指すには、これらの問題への対策を取らなければなりません。そのため、日本とオーストラリアはどのように対策しているのかを比較し、それぞれの利点や欠点を見付けたいと考え、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

日本の対策…ハザードマップ（地震、台風）、避難所案内

オーストラリアの対策…ハザードマップ（大雨による洪水、サイクロン）

### 2 検証方法

(1) 日本の災害や環境問題、それらの対策はどのようにしているのか調べる。

オーストラリアの自然災害や環境問題の特徴や、どのような対策をしているのかについて調べる。

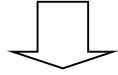
(2) ニュースを見て、最近起こった自然災害について調べる。

### 3 調べた内容

#### 日本

##### <自然災害>

台風 → 河川の氾濫、土砂災害等  
地震 → 土砂崩れ、火災の発生等



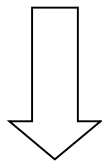
- ・自治体→ハザードマップを発行し配る。避難所案内を町中に設置する。
- ・政府→防災リュック、家具に転倒防止の処置、避難所・避難経路の確認を推進

##### <環境問題>

火力発電→二酸化炭素の排出量が減らないこと

ごみ問題

異常気象



- ・政府→二酸化炭素の排出量を 2070 年までに実質ゼロにするという目標
- ・政府→節電・節水などの省エネ、エコバックの使用、プラスチックゴミの削減を推進

#### オーストラリア

##### <自然災害>

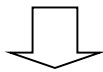
オーストラリア北部…サイクロン（新幹線くらいの速さの風が吹くことがある。）

大雨の後、洪水



- ・クイーンズランダー→1階が空洞、2階が居住区の洪水・暑さをしのぐための家
- ・サイクロンシェルター→サイクロンから身を守るための避難所

オーストラリア南部…山火事



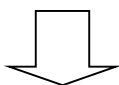
- ・firefighter SES+→消防緊急サービス
- ・コントロールドファイヤー→普段からわざと下草を焼いて火が広がらないようにする。

##### <環境問題>

火力発電→二酸化炭素の排出量が減らない

ごみ問題

水不足



- ・Worm farm→果物・野菜の細切り、紙、卵の殻をゴミ箱に捨て、ゴミ箱に住んでいるミミズにそれらのゴミを食べてもらって土に戻す。
- ・徹底した節水→シャワーは3分以内



サイクロンシェルター



クイーンズランダー



Worm farm

#### 4 考察

オーストラリアの自然災害への対策は、日本と同じように避難所を作って対策をしているということが分かりました。また、環境問題では、日本とオーストラリアは共に火力発電に頼っているため、二酸化炭素の排出量の削減が遅れているということも分かりました。けれども、オーストラリア人は自然災害についてあまり深刻に考えていないようです。理由は、ホストマザーのKatrinさんにオーストラリア政府の災害の対策の呼びかけについて質問したときに、「知らない。」と言っていたからです。逆に環境問題については、最近山火事が起きている影響からか、深刻に考えていました。日本では、環境問題よりも自然災害についての考えのほうが深刻なようです。私はそれを、台風や地震の被害が多いからだと考えました。

どちらの国にも、もっと自然災害や環境問題の対策を考え、防いでいく必要があると思います。私は将来、自然災害や環境問題の対策に携わる仕事がしたいと思っています。そのために、もっと自然災害や環境問題について調べていきたいです。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

私は、Van den boomさんの家にファームステイしました。ホストマザーのKatrinさんは、Millaa Millaa Fallsをはじめとする三つの滝や、湖、牧場、Athertonにつれて行ってくださいました。Katrinさんの娘のJanaちゃんとはトランポリンで遊びました。また、夜に山を散歩したり、一緒にピザを作ったりして本当に楽しかったです。



ホストファミリーとの記念写真



ホストマザーと見に行った  
クリスマスツリーファーム



Millaa Millaa Falls

## 2 現地で活躍する日本人の方々へインタビュー

3人の日本人の方の印象に残った言葉をまとめました。

<日本語教師 中村有佳さん>

「日本人は、おおらかになり、真面目になりすぎないことが大切。」

<メカニック 水野那由太さん>

「環境問題は解決が難しいので、興味をもってもらい、一人一人がそのことに時間を割くことが大切。」

<獣医師 松井彰大さん>

「外国人と関わる時は、当たって砕けることが大切。」

3人とも、日本人には気楽さが足りないとおっしゃっていました。それを聞いて私は、これからは何事もポジティブにとらえようと思いました。

## V 海外研修を終えて

私はこの研修を通して、たくさんの経験をさせていただきました。日本では見ることのできない植物や動物を見たり、日本とは違う気候で過ごしたりして貴重な時間を過ごすことができました。また、英語でのコミュニケーションの取り方を現地地で覚えることもできました。オーストラリアは、とても優しく明るい方々が多かったです。自分もこのような人になりたいと思いました。私は将来したいことが見付かっていなかったのですが、この研修に参加して、自然災害や環境問題の対策に携わる仕事に就きたいと思うようになりました。

最後に、私はこの研修に参加できたことを光榮に思っています。この研修で学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです。



Malanda の壁アート



# オーストラリアレポート

No. 11 西仙北中学校 新田 結衣

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は二つあります。一つ目は自分の英語力を上げたいと思ったからです。英語は私の好きな教科の一つであり、英語しか使うことのできない環境で生活することによって力を付けられると考えました。二つ目は、世界を知ることによって自分の視野を広げたいと思ったからです。私は生徒会執行部員であり、「にしせん未来塾」という西仙北地域のよさを継承しようとしている団体にも所属しています。その活動の中で、「西仙北地域の伝統を残すため、西仙北地域について他の地域の人にも知ってもらうためにはどうすればよいか。」という話題がよく出ます。そこで、自分の住んでいる地域から飛び出すことでたくさんの情報を得ることができると考えました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

「大仙市のよさを広くPRするにはどうすべきか？」

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市では「花火の街 大仙市」として大曲の花火を中心にPRしており、毎月花火大会が行われています。しかし、大仙市にある花火以外のよいところをもっとPRしてもいいのではないかと感じます。

そこで、オーストラリアの宣伝の仕方を知ることによって、これからの大仙市のために私たちも何か貢献できるのではないかと考え、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- ・観光客のリピート率が高い  
→広大な土地と自然を利用してたくさんの観光地をつくり、紹介することで再び訪れたいくなるようにしているのではないか。
- ・コアラやカンガルーが有名  
→動物にジャンルを絞ってPRしているのではないか。

## 2 検証方法

- (1) パンフレットを見て特徴的な部分を見付け、大仙市のものと比較する。
- (2) ホストファミリーや現地で活躍している日本人の方々に質問をする。

## 3 調べた内容

### (1) 〈パンフレットの比較〉

大仙市のパンフレットは、表紙は写真などを使って簡潔にまとめられていて、中は写真と文字を使った情報が多いように感じました。

オーストラリアのパンフレットは、建物の写真が少なく、自然や動物に関する内容がほとんどでした。さらに、文章よりも写真の割合が高いものが多く、自然の素晴らしさが一目で分かりました。

共通点としては、マップを用いて観光客がその場所に足を運びやすいように工夫されている点や、その地域にしかないオリジナルティのあるものを紹介している点などが挙げられます。



オーストラリアのパンフレット

### (2) 〈ホストファミリーへの質問〉

Q:What is unique about Australia? ( オーストラリアのユニークなところは何ですか?)

A:Tree Climbing Kangaroo. (木に登るカンガルーがいるところです。)

#### 〈現地で活躍している方への質問〉

○中村有佳さん

Q:どのようなことをすれば自分の地域のよさを広めることができますか?

A:自分の地域をよく知ることが大切です。さらに、自分の地域を客観的に見るために、他の地域についても知る必要があります。そうすると、住んでいるだけでは分からなかったよさが見えてきます。

○松井彰大さん

Q:オーストラリアに来たときの第一印象はどうでしたか?

A:オーストラリアには十二歳のときに来たのですが、最初感じたのは、動物がいっぱいいるな、ということです。

### (3) その他

#### 〈アボリジニの伝統〉

アボリジニという先住民の踊りや狩りの様子などを見ました。その方々は普段は一般の方と同じように生活しているのですが、日中は歴史や伝統を伝えるために民族衣装を着て活動しているそうです。伝統継承のために子どももステージに立って踊りを踊っていました。

## 4 考察・まとめ

この研修を通して、研修先では、滝や森、動物などの自然に関する観光地が多く、たくさんある自然を生かしてPRしていることが分かりました。また、パンフレットに写真を多く使っているのはその美しさを伝えやすくするためだと考えました。

ホストファミリーや、現地で活躍している日本人の方々への質問から、自分の地域のよさをPRするには、自分だけではなく、そこに住んでいる多くの人たちが、その地域を好きになりたくさんの知識をもつことが大切だと分かりました。さらに、伝統を受け継ぐ人材を育てることも必要だと思いました。

大仙市には多くのお祭りや豊かな自然があります。まずは、そのよさを自分たちが知る必要があったと思います。そして、それをオーストラリアのように写真をたくさん使って分かりやすく広めたいです。

## IV エピソード

### 1 初めてのファームステイ

私は、今回の研修で初めてファームステイを体験しました。私たちを受け入れてくださったのはKeoughさんご夫妻で、写真はホストマザーのJeannetteさんです。

Jeannetteさんは公園やショッピングモールなどたくさんの場所に連れて行ってくださいました。

ファームでは牛の飼育とジャガイモの栽培をしていました。本物の牛を間近で見るのは初めてでその大きさに驚きました。

オーストラリアでの食事は私たちが普段食べている日本の食事とは違うところが多かったです。食事の量、皿、マナーなど分からないこともありましたが、ホストファミリーが丁寧に教えてくださいました。

たった3泊4日の短い時間でしたが、有意義で楽しい時間を過ごすことができました。



ホストマザーのJeannetteさんと



Millaa Millaaの滝で



ファームの牛



夕食

### 2 オーストラリアの人々

この研修でオーストラリアの方々のフレンドリーさを知りました。ファームステイのときにホストマザーが人とすれ違くと、手を振ったり話しかけたりしていました。日本ではよそよそしく会釈をして通り過ぎることもあるため、オーストラリアでは人々との距離の近さや明るさを感じました。

また、オーストラリアの方々はおおらかであることが分かりました。現地で活躍している日本人の方へのインタビューでは、「オーストラリアの人々は時間にルーズだけれども、人種の違いに対しての偏見がない。」と聞きました。几帳面で、5分前行動をする日本人とは全く違うと思いました。

### 3 自然の豊かさに驚き！

この研修で様々な観光地を訪れましたが、その多くが自然に溢れた場所だったことが印象に残っています。青く綺麗なグリーン島の海、キュランダ鉄道から見たいくつもの滝。思い出のどれを取ってもその中には美しい自然があります。ホストマザーには滝や森にも連れて行っていただきました。マンガリーフォールズでは、DVDで見たことのあるヒカリキノコバエを生で見る事ができてとても嬉しかったです。

大仙市の川や木々も素晴らしいですが、オーストラリアの自然は私たちがいつも見ているものとは違った美しさがあると感じました。



Millaa Millaa の展望台

### 4 動物に触れた！

私は動物が苦手でした。見るだけなら可愛いのですが、触るのは噛みつかれそうで怖かったため、今までほとんど動物に触らずに過ごしてきました。しかし、怖いもの見たさで触ってみたいという気持ちもありました。

この研修で動物園に行きました。そこではカンガルーとワラビーが放し飼いになっていて、餌を買えば餌やりもできるようになっていました。私は勇気を出してワラビーに触ってみることにしました。最初は少し怖かったのですが、動物に触ることができてとても嬉しかったです。また、この動物園ではコアラと一緒に記念撮影もできるようになっていて、コアラを触りながら写真を撮りました。ふわふわしていて可愛かったです。動物は苦手でしたが、この研修を通して少し克服できたような気がします。



## V 海外研修を終えて

この研修を振り返って私が一番心に残っているのはたくさんの自然と生き物です。滝、森、川、昆虫、動物、様々な美しさがこの研修をより充実したものにしてくれました。さらに、これらをPRしていく方法も学ぶことができ、自分の今後の活動に生かせると思います。

研修が始まった直後は、親元を離れて一週間以上生活することや、英語以外通じないという環境に対しての不安でいっぱいでした。しかし、仲間がいたからこそうまくやっていけたのだと思います。短い間でしたが、研修生17人との絆が生まれたと思います。

最後に、教育委員会の方々や引率して下さった先生方、家族など、この研修に関わって下さった全ての方々に心より感謝します。ありがとうございました。



Kuranda にて

*Thank you!!!*



ファーム近くの公園で

## I はじめに

私は以前から海外の文化や生活に興味がありました。日本とは違う環境での生活を実際に体験して、大仙市のよさや違う点を見つけたいと思いました。そして、オーストラリアの人たちと積極的に交流し、英語力や表現力を高めて自分を豊かに表現できる人になりたいと思い、今回の研修に参加しました。

この研修に参加できることが決まってから、出発が待ちきれませんでした。初めての海外に期待でいっぱいでしたが、コミュニケーションをとれるのか不安な気持ちもありました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『たくさんの人が生涯スポーツに親しむためには？』

### 2 設定理由

私は、小学校5年生からバスケットボールを続けています。私たち中学生は、様々な形でスポーツと親しむことができます。しかし、社会人になると親しむ機会は少なくなると感じました。大仙市には500歳野球やグラウンドゴルフなど、高齢者がスポーツに親しむ工夫があります。そこで、オーストラリアではどのようにスポーツと親しんでいるのか、また、高齢者がスポーツに親しむためにどのような工夫をしているのか知りたいと思い、研究テーマにしました。

## III 研究テーマについて【予想・検証方法・調べた内容・考察】

### 1 予想

オーストラリアでも老若男女問わずスポーツに親しむのは難しいことだと思います。学生は、私たちと同じように学校の授業や部活動で取り組み、大人は、広い土地を活かして造られた公園や運動施設で、趣味としてスポーツに親しんでいると思いました。

### 2 検証方法

私は自分が立てた予想を検証するために、次の活動を行い大仙市と比較することにしました。

- (1) 現地の学生たちに部活動などについてインタビューする。
- (2) 公園や運動施設の使用状況を調べる。
- (3) 土地の利用方法を実際に見る。

### 3 調べた内容

(1) 実際にホームステイ先の家族の方に質問をして答えていただきました。

Q 1 : 近くにある公園や運動施設はどれくらいありますか？

A 1 : 公園…2 運動施設…7 (柔道・テコンドー・乗馬・フットボールなど)

大仙市 ➡ 私の地域にはバスケットコートや公園があるが数は少ない。

Q 2 : 学校にはどのような部活がありますか？

A 2 : 学校に部活はありません。そのかわり、水泳やホッケーなど、いろいろなスポーツクラブがあります。

大仙市 ➡ バスケットボール部・野球部・卓球部・バレーボール部などがある。

Q 3 : かけもちはできますか？

A 3 : できます。私は、3種類のスポーツクラブに所属しています。

大仙市 ➡ スポ少ではできる。

Q 4 : オーストラリアで人気のスポーツは何ですか？

A 4 : フットボール・ラグビー・ホッケーなどです。

大仙市 ➡ 野球・バスケットボールなど

Q 5 : オーストラリア独自のスポーツは何ですか？

A 5 : クリケット・フットボール

大仙市 (日本) ➡ 柔道・剣道など

Q 6 : 家族で楽しんでいるスポーツはありますか？

A 6 : 特にはありません。近くにある森に行って散歩をしたり、家の庭にあるトランポリンで遊んだりしています。

大仙市 ➡ 私の家族はバスケットボールや駅伝を観て楽しんだり、ウォーキングをしたりしている。

Q 7 : 年配の方々がスポーツをするための工夫は何かありますか？

A 7 : シニアクラスがあり、そこで太極拳やヨガをしています。

大仙市 ➡ 500歳野球やグラウンドゴルフを楽しむ機会や場所がある。

(2) オーストラリアでの公園や運動場は、どちらも様々な年代の人が利用していました。しかし、私の地域では、公園は小学生、バスケットコートは中学生・高校生が多く使用しており、様々な年代の方が同じところを利用していることはないです。

(3) 海岸沿いや屋外にトレーニング施設があり、様々な人が各種トレーニングマシンを自由に利用できる環境でした。

また、広い土地を活かして、ラグビー場や乗馬施設などの大きな運動施設が多くありました。



《 乗馬施設 》



《 ラグビー場 》

## 4 考察

オーストラリアにはいろいろな国から来た人たちが住んでいるため、スポーツだけでも様々な種類のものがありました。その中でも多く親しまれているのは大人数で楽しめるスポーツで、これは私たちと一緒にだと思いました。また、年配の方々がスポーツに親しむための工夫も似ていると思いました。広い土地を利用し、自由に使える施設を多く設置していることで、よりたくさんの人たちがスポーツに親しんでいると感じました。複数のスポーツクラブを掛けもちすることができるため、様々なスポーツを楽しめて、より幅広い分野のスポーツに親しむことにつながっていると思いました。自由に施設を利用できれば、スポーツに関心をもつ人も増え、趣味としてスポーツに親しむ人も増えるのではないかと思います。

## IV エピソード

私はホームステイ先の Schreiber さんのお宅に滞在させていただきました。ホストマザーの Katrin さん、ホストファザーの Jaap さん、12歳の男の子 Tom、10歳の女の子 Jana、全員フレンドリーで親切な方たちでした。

### 1 ホストファミリーとそうめん

私たちのグループではホストファミリー宅で『そうめん』を作りました。

ホストファミリーが4人家族で、全部で8人分のそうめんを作る予定でした。思ったより多くできてしまい食べきれませんでした。

《作ったそうめん》



## 2 ファームステイ宅に…

夜、シャワーを浴びようとしていたときに家の中に2メートル以上の大きな蛇が入ってきました。ホストファミリーにとっても珍しいことだったようで、いつの間にか写真撮影会になっていました。蛇はホストファザーが外に出してくれました。



《ホストファミリーと》

《侵入した蛇》



## 3 現地で活躍する日本人へのインタビュー

### (1) レーシングライダーやメカニックとして働いている水野さん

Q 1 : 海外に来て、日本にいたときと変化したことは何ですか？

A 1 : 我慢強くなったことです。日本での常識が通じないので、こちらが合わせなければなりません。例えば、時間の感覚などです。

Q 2 : 仕事をするうえで大切にしていることは何ですか？

A 2 : こだわりです。選手をサポートする立場の仕事なので、こだわるほど選手の成績も向上すると考え、取り組んでいます。

### (2) 日本文化を広める活動をしている中村さん

Q 1 : 日本語や日本文化を教えるために大切にしていることは何ですか？

A 1 : 現地の人の視点に立ってどのようなものが喜ばれるのか観察し、何が新鮮なのか探して発見することを心掛けています。また、日本のことをよく知ることも大切だと考えます。

Q 2 : 海外で働くことのやりがいは何ですか？

A 2 : 日本の凄さや面白さが伝わることです。現地の子供たちはお辞儀の角度の話だけでも、とても面白そうに聞いていました。

### (3) 現地で獣医師をしている松井さん

Q 1 : コミュニケーションをとるのに大切なことは何ですか？

A 1 : 委縮しないことです。完璧を求めてしまうと上手くコミュニケーションがとれないので、



失敗を恐れず積極的に会話をすることです。

Q2：海外に来て日本にいたときと変化したことは何ですか？

A2：考え方がポジティブになったことです。オーストラリアの人たちは、得意なことは伸ばして、苦手なことは平均ぐらいでも大丈夫という考え方で、心広く許容してくれるので、ポジティブになりました。

私はこのインタビューで、住んでいるところのよさを見つけるためには一度その場所を離れてみなければいけないことが分かりました。日本では当たり前のことがオーストラリアでは違ったので、それは日本のよさだと実感しました。仕事をする上で、こだわりを大切にしているところは同じだと感じました。そして、コミュニケーションをとるときは委縮しないことが大切だと学びました。

何事にも前向きなオーストラリアの人たちのように、ポジティブに考えて失敗を怖がらず、様々なことに挑戦していきたいと思いました。

## V 海外研修を終えて

初めての海外だったので不安や緊張もありましたが、仲間や先生方のおかげでとても楽しく充実した研修にすることができました。大仙市とは違う生活環境や文化、気さくな人柄や、ポジティブな考え方など、全てが新鮮でした。

オーストラリアの人は明るくて、初対面の私たちにも笑顔で話しかけてくれました。そのおかげで、私も楽しくたくさん英語で話すことができました。また、この研修を通して日本・秋田県のよさを再発見することができました。日本食や思いやりの心は日本の誇りだと思いました。

研修期間中、大仙市の代表であることを心におきながら過ごすことができました。また、最後まで体調を崩すことなく安心して過ごすことができました。これは、先生方、飛田さん、仲間、オーストラリアの方々のおかげだと思っています。笑顔で送り出してくれた家族にも感謝したいです。本当にありがとうございました。



《ファームステイメンバー》

# 成長できたオーストラリア研修

No. 13 中仙中学校 長澤 李々花

## I はじめに

待ちに待ったオーストラリアの海外研修が始まりました。初めての海外、初めての親離れで、どんな新しい出来事が待っているのか、楽しみと不安で胸がわくわくしていました。

私がこの研修に応募した理由は二つあります。

一つ目は、自分自身の英語でのコミュニケーション能力を高めるためです。私は小学校3年生から英語を習っています。現地の方と直接会話ができるよい機会なので、自分はどのくらい英語でコミュニケーションをとることができるのか確かめてみたかったからです。

二つ目は、オーストラリアのよい所をたくさん見付けることです。オーストラリアには大仙市にはないよい所がたくさんあると思います。オーストラリアのよい所を肌で感じ、大仙市にPRできたらよいと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の自然環境を守っていくにはどうするべきか？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市では、プラスチックゴミの増加や地球温暖化との関連が疑われる豪雨による洪水被害が特に問題となっています。ゴミ問題でいうと、日本が発表しているプラスチックゴミのリサイクル率は84%とされていますが「世界基準のリサイクル」に照らし合わせると、実はたったの23%しかリサイクルができていないことが分かりました。そこでオーストラリアの方々はどうのようにして自然を守っているのか、オーストラリア独自の環境の守り方はないのか不思議に思いテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- ・オーストラリアと日本ではゴミの分別、処理の仕方が異なるのではないかな。
- ・オーストラリア独自の環境の守り方があるのではないかな。
- ・オーストラリアは地球温暖化への取り組みを様々な人に伝えているのではないかな。

### 2 検証方法

- (1)大仙市とオーストラリアのゴミの分別、処理の仕方を家族やホストファミリーに聞いたり、インターネットで調べたりする。
- (2)オーストラリアにはどのような環境問題があるのかをホストファミリーや現地の方に聞く。

(3) オーストラリアと日本の街の違いを自分の目で確かめる。

### 3 調べた内容

(1) ゴミの分別、処理の仕方について

#### 【大仙市の場合】

- ・大仙市は 10 の分類に細かく区分してゴミを収集している。ゴミはきちんと分類して、決められた日に決められた場所へ出すようになっている。大仙市の燃えるゴミ袋の値段は 400 円(大)。
- ・大仙市で行っているリサイクルは、ペットボトル、食品トレイ、キャップ、プルタブ、古紙、カン、ビン等で行われている。

#### 【オーストラリアの場合】

- ・黄色のゴミ箱→リサイクルできるゴミ箱(すべての紙類、プラスチック類、ビン、ボトル、アルミ缶)
- ・赤色のゴミ箱→リサイクルできないゴミ箱(リサイクル出来るゴミ以外のもの)
- ・緑色のゴミ箱→庭から出たゴミ(葉、木、花、植物)
- ・オーストラリアでは各家に大きいゴミ箱があつて週に 1 回ゴミ収集車が来てゴミを持って行ってくれる。(大きいゴミ箱は無料でもらえる)
- ・ゴミ袋の値段は様々ある。
- ・日本よりもゴミの分別、処理の仕方が少ない。



オーストラリアのゴミ箱

(2) 地球温暖化について(オーストラリア)

オーストラリアではプラスチック増加のために、亀の鼻にプラスチックストローが刺さっていることが分かり、そこからプラスチック減少の活動をしたそうです。

- ・プラスチックストローを紙ストローに換える
- ・レジ袋を有料にする

この他に問題になっていることは水です。オーストラリアは年間降雨量がとても少ないです。そこでファームステイ先の家族は次のことに気を配って生活していました。

- ・シャワーの使用は 3 分以内にする
- ・雨水をためて生活する
- ・環境保全活動で海をきれいにする

水はとても貴重なため日本よりもとても大事に使っていました。



カモノハシが住んでいる川

### (3) オーストラリアの街について

- ・ゴミが落ちていない
- ・自然がたくさんある(公園や歩道などの木が大きく成長している)
- ・電柱が日本よりも少ない(地中に電線を埋めている)
- ・馬や牛が広い農場で放牧されている(たくさんの動物がいる)
- ・道路の幅が広い
- ・動物についての看板がたくさんある

オーストラリアの人々は自然が大好きなので、森を切り開いて新しい道路を造ろうとすると反対する人が多く、豊かな自然がたくさんあるそうです。動物が住みやすい環境を作るために木や植物をたくさん植えていました。



動物飛び出し注意の標識



広大な牧場

## 4 考察

現地を訪れてみて、オーストラリアでは大仙市よりもリサイクルのための分別の種類が少ないことが分かりました。日本は電気自動車など、環境に対してやさしい物がたくさんありますが、オーストラリアは環境の守り方に対しては遅れていると聞きました。実際街中には、TOYOTA 車をはじめ日本車がたくさん走っていましたが、大仙市内ほどハイブリットカーを見かけなかったように思います。しかしオーストラリアの街中を見ると、自然が豊かで動物がたくさんいて、大仙市では見ることのできない大自然にふれることができました。街中にたくさん動物を見かけることができるほど、自然との共生が日本よりも進んでいるように感じました。一人一人が自然環境のことを思って生活しないと地球温暖化は改善できないと思いました。

## IV エピソード

### 1 日本食を作ってみました！

私たちはKatrinさんとJaapさんの家でファームステイをさせていただきました。その家族には、TomとJaraというかわいい子供たちもいて、みんなフレンドリーでとても親しみやすかったです。私たちはステイ先の家族に、そうめんを作りました。「おいしい」と言っておかわりして食べてくれたのでうれしかったです。でも、そうめんを作りすぎてしまって「50人分あるね」と笑われてしまいました。次の日、ホストマザーのKatrinさんは残ったそうめんをスープと、そうめんの炒め物を作ってくれました。すごくおいしかったです。他の日本食も食べてもらいたいと思いました。



作りすぎたそうめん



ホストマザーKatrinさんのアレンジ料理



## 2 ファームステイでの様々な体験！！

ホストマザーのKatrinさんは小学校の先生なので、小学校に行ってたくさんの野菜を植えて来ました。小学校の畑には約20種類くらいの野菜が植えてありました。畑でとれた野菜を使ってピザを一緒に作りました。新鮮な野菜をたくさん使って作ったピザはとてもおいしかったです。ホストファミリーの方には、日本ではできない様々な体験をさせてもらいました。



新鮮な野菜を使ったピザ



小学校の畑

## 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

Q：オーストラリアに来て、日本のよさは何だと思いましたか？

A：日本のよさはいろんな情報やいい物がたくさんあること、安くていい物がたくさんあること。

Q：オーストラリアに来て英語を話す時に気をつけていたことは何ですか？

A：英語が完璧ではなくても、とにかく話すことが大事。恐れずにたくさん話をして当たって砕けること。

## V 海外研修を終えて

最初は、上手にコミュニケーションが取れるか、英語を話せるのかとても不安でしたが、オーストラリアの人々はすごく親しみやすく、話しているととても楽しかったです。

私が大変だと感じたのは環境の違いです。食や気候の違い、シャワーは3分以内にするなど、日本と違うことがたくさんあったのですごく苦勞しました。嬉しいと感じたことは、自分が話した英語がオーストラリアの人に伝わったことです。完璧な英語ではなくても伝わったことが本当にうれしかったです。人と関わる大切さ、コミュニケーションの大切さを改めて実感することができました。

私は今回の研修によって自分自身を大きく成長させることができました。この研修が私にとって、一生忘れられない素晴らしい経験になったのは、教育委員会の皆様、引率の先生方、サポートしていただいた学校の先生方、そして最後まで私のことを応援してくれた家族のおかげだと思います。本当に皆さんには感謝しています。ありがとうございました！



ホストファミリーと一緒に

---

*Thank you for a lot of memories in Australia!!*

---

# STUDY REPORT IN AUSTRALIA

No. 14 協和中学校 沓澤 あずさ

## I はじめに

2020年1月4日、家族に見送られながら、海外研修が始まりました。私がこの研修に応募した理由は大きく二つあります。一つ目は生きた英語に触れて自分の英語力を向上させるため、二つ目は日本と違う生活習慣や、文化、歴史を実際に体験したいと思ったからです。この二つのことを目的として活動しました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の魅力を発信し、観光客を増やすためには？』

### 2 設定理由

大仙市の花火には毎年多くの観光客が訪れます。しかし一年を通して考えると、まだまだ大仙市に訪れる観光客は少ないと思います。その原因は、大仙市の魅力が十分に発信されていないからだと考えました。このままでは大仙市はただの通過点になってしまうと思ったので、私はこのテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- (1) 何か国かの言語を使ったポスターの掲示。
- (2) 人気施設に観光パンフレットが置いてある。

### 2 検証方法

- (1) 大仙市で行われている工夫について調べる。
- (2) オーストラリアで行われている工夫について調べる。

### 3 調べた内容

【大仙市】

- (1) 観光物産協会のHPには…
  - 日めくり花火暦が掲載されているので、花火に関するイベントが詳しく分かる。
  - 外国語指差し会話シート「英語、中国語、韓国語」で観光時に必要な会話表現を掲載。

- (2) 大曲駅に「観光情報センター グランポール」設置
  - 観光パンフレット
  - 観光案内
  - 大仙市限定のお土産ショップ
- (3) 道の駅
  - 地図や案内看板が整備されている。

#### 【オーストラリア】

- (1) 観光客自身が撮った写真、文章をブログ等で発信
  - 観光客自身が伝える「生の声」によって、自然体に魅力を発信することができる。
- (2) 人気スポット、大型ショッピングモール
  - 言語の違うアナウンスが流れている。
  - パンフレット（日本語、英語、中国語）が置かれている。  
宣伝の仕方⇒魅力的な部分を一番に！
- (3) 観光地のすぐ近くに宿泊施設やレストランがある。

## 4 考察

オーストラリアは自国をとっても大切にしている国だと感じました。そう思ったのは、アボリジニの文化を今でもショーなどで披露していて、観光客にオーストラリアの歴史を伝えていたからです。

また、オーストラリアの観光地は自然を生かしたものが多く、そこでは動物や植物を大切にされていて、環境保護に対するシステムや法律が徹底していると思いました。

その一方で大仙市にはたくさんの自然がありますが、うまく観光資源として使われていないのではないかと私は思いました。大曲の花火や刈和野の大綱引きなど有名な行事もたくさんありますが、オーストラリアのように元からある自然を大切に活用していくことが観光客を増やす一つのポイントだと思います。

オーストラリアの人は自分の国にとっても詳しく、ホストマザーに大曲の花火について説明すると、オーストラリアでも南部の方で花火が上がるけど、一時間ほどで終わってしまうと教えてくれました。このことから、自分の国や地域の魅力を伝えるためには、まず自分がその魅力や特徴を知っておかなければならないと気付きました。

大仙市では「大仙ふるさと博士」という活動を行っています。私はこれからも自分のふるさとについて少しでも詳しくなり、外の世界に出てから、大仙市の魅力を伝えていきたいと思いました。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

私は、Tania さんのお宅に滞在させていただきました。Tania さんは、牛、ヤギ、鳥を飼っていて、私に動物のことをたくさん話してくれました。

私はファームステイ二日目に体験した、草ころがしが一番心に残っています。自分と同じくらいの大きさの草のかたまりを、グループのみんなで転がしながら坂を下って行ったときはとても楽しかったです。秋田ではできない貴重な体験をさせていただきました。また、食事の時間

にはおしゃれなテラスで会話を楽しみながら毎回とてもおいしいご飯をいただきました。

私が秋田の伝統行事について紹介したときには、Tania さんはずきながら聞いてくれました。私がお土産で渡したお面も喜んで着けてくれてとてもうれしかったです。そして、Tania さんとたくさん会話をすることができて楽しかったです。最初は緊張していましたが、Tania さんとグループのみんなのおかげで、三日間楽しく過ごすことができました。



草ころがしを楽しむ

### 2 アボリジニショーを見学しました！



アボリジニ

ショーには、小さな子供もアボリジニとして出演していたことが印象的でした。ディジュリドゥという楽器でオーストラリアに生息する動物の特徴を表現する方法を教えてもらいました。一つ一つ違って、とても感動しました。特にカンガルーは分かりやすく、高くジャンプしている姿が思い浮かびました。また、ディジュリドゥの吹き方にはいくつかの方法があって、口をずっと付けたまま演奏するのは難しいということも教えてもらいました。オーストラリアの人々は、自国の歴史を大切にして観光客に伝えているということを感じました。

### 3 GREAT BARRIER REEF に行ってきました！

グレートバリアリーフとは世界最大のサンゴ礁地帯で、世界遺産にも登録されています。私たちはサンゴ礁だけで形成された島、グリーン島に行ってきました。サンゴとはプランクトンを食べて生きている刺胞動物の仲間、波や



グリーン島の海



潮の流れ、光の当たり方で形が変わります。また、枝型、岩型、テーブル型によって、成長するスピードが異なります。サンゴに必要な環境は、暖かい気候、青い海、輝く太陽。それらが全てそろっていて、息をのむほど美しかったです。

## 4 インタビュー

現地で活躍する日本人の方々にインタビューしました

○中村有佳さん

- ・オーストラリアに来てから気付いた日本のよさは？  
→時間に厳しいからこそ社会が成り立っているということ。  
→オーストラリア人は、時間にルーズでうまく物事が進まない時があるから。
- ・オーストラリアの人と比べて日本人に足りないと思うことは？  
→自分の時間、家族と過ごす時間。  
→仕事と自分の時間を分けることが大切。

○水野那由太さん

- ・オーストラリアに来てよかったと思うことは？  
→オーストラリアにいてたくさんの外国の料理や人との会話を楽しめること。
- ・伝統行事を受け継ぐ人を増やすためには？  
→若い人に楽しさ、おもしろさをたくさん伝えていくこと。

○松井彰大さん

- ・オーストラリアに来てからの第一印象は？  
→ここにしかない、ここでしか見られない自然、動物がたくさんある。

## V 海外研修を終えて

私は今回の研修で、自分の思いを相手に伝えるということはとても大切だということに気がきました。言葉で伝えきれなくても、手ぶり、身ぶりを使えば、自分の気持ちを伝えることができると思います。

オージーキッズとの交流では、一緒にアーチェリーをしたり、ダンスを踊ったりして、充実した時間を過ごすことができました。

ファームステイ先では、折り紙をプレゼントしたり、日本茶を飲んだり、日本のことを紹介することができて、とてもうれしかったです。グループのみんなと協力して、英語を話したり、聞き取ったりすることができ、自分の英語力を少し上げることができたと思います。私の英語力はまだまだですが、これからも向上できるように、日々勉強に励んでいきたいです。また、この研修で出会った友達と、グループのみんなで作った最高の思い出をこれからも大切にしていきたいです。



車窓からの景色

# オーストラリアレポート

No. 15 協和中学校 佐々木 隼

## I はじめに

2020年1月4日、いよいよ私の海外研修が始まりました。私がこの研修に応募した理由は二つあります。一つ目は将来英語を使う職業に就きたいからです。生きた英語を自分の肌で感じてみたいと思いました。二つ目はオーストラリアの文化や歴史を学びたいと思ったからです。異文化に触れ、そして日本のよさを再発見したいと考えました。さらに、自分の視野を広げるよい機会にしたいと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の観光スポットをたくさんの人に知ってもらうには？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市の有名なイベントと言えば、「大曲の花火」だと思います。夏になると全国から観光客が訪れ、街がにぎやかになります。でも、それはほんの一時期のことであり、一年中ということではありません。その原因は、大仙市の観光スポットがあまり知られていないからだと思いました。だから、まずは、知ってもらうために何が必要なのか、観光客の多いオーストラリアで調べたいと思いました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- (1) 観光スポットのホームページや広告、看板を工夫しているのでは？
- (2) 観光地ならではの記念品を販売しているのでは？
- (3) インターネットを使って観光情報を発信し、観光サービスを作ればよいのでは？

### 2 検証方法

- (1) 大仙市の看板とオーストラリアの看板を比較する。
- (2) 現地にいる日本人に現地の観光のことについて質問する。
- (3) オーストラリアの観光地に行き大仙市の観光との違いを見付ける。

### 3 調べた内容

- (1) [はなび・アム]

大仙市の有名なイベントである大曲の花火には人口4万人の街に80万人もの人が集まるようになった。1910年から約100年の歴史をもつ。その行事をアピールするために、は

なび・アムが建てられた。

〔唐松神社〕

安産と子授けの神様として親しまれている。樹齢 300 年を超えると言われる杉並木が並ぶ参道境内を進むと下り階段があり、それを降りた先に本殿がある。これは全国的に珍しい造りだ。近隣には中世の館を再現した「まほろば唐松」がある。敷地内には、秋田県内唯一の能舞台があり、現在も定期的に能公演が行われている。

(2) オーストラリアのキュランダ鉄道では言語の違うアナウンスが流されていた。

→英語、中国語、日本語

資料館ではたくさんのパンフレットが置かれている。

1つの観光地に対して複数の看板が建っている。

ケアンズ市内には日本語を話せる店員がいる。

## 4 考察・まとめ

オーストラリアの観光は自然を生かしたのが多いと感じました。特に滝や湖の観光スポットが多くとても神秘的でした。

オーストラリアには、至る所にたくさんのパンフレットが置かれていました。それは、思わず手にとって見たいくなるようなものばかりでした。また、オーストラリアの看板は、一つの観光地に対して複数の看板が設置されており、距離も示していて分かりやすかったです。鉄道などの観光地の案内は、3か国の言語で表示されていました。このような様々な方法でたくさん案内されていました。

大仙市では、花火だけではなく、観光に生かせる自然や伝統文化、行事がたくさんあるので、アピールの方法を変えていくと訪れる人も増えるのではないかと考えました。また、現地の日本人の方にインタビューしたときに、オーストラリアではスキーも人気があるという話でした。大仙市でも冬はスキー、夏は花火など、季節にあった体験型観光プランを作ればよいと思いました。

## IV エピソード

### 1 折り紙でかぶとを作りました!

ホストマザーの Jeannette さんとホストファザーの Geoff さんのお宅でファームステイしました。初日はミラミラウォーターを見に行ったり、他のグループとピクニックをしたり、楽しいことばかりでした。家に帰ってからは、200頭の牛にえさやりをしました。えさはジャガイモでした。大変でしたが、初めての経験で楽しか



ホストマザーにかぶとをプレゼント

ったです。二日目は、買い物に行ったり、湖や滝を見に行ったりしました。たくさんの自然に囲まれていたので、空気がおいしかったです。そして、夜は、折り紙で遊んだり、アルバムを見せて家族を紹介したりしました。折り紙でかぶとを作ってホストマザーにプレゼントをし、かぶとについて説明しようとしたところ、「かぶと」と言って、自分の頭の上に乗せていました。日本の歴史的なものを知っていて驚きました。長いようで短い三日間でしたが、たくさんの思い出ができました。



ホストマザーと記念撮影

## 2 アボリジニ文化体験

オーストラリア先住民であるアボリジニの文化を身近に感じることができました。ブーメランを投げたり、ダンスショーを見たりしました。実際に手で触れたり、見たりして体験することで、文化をよく知ることができました。そして、魅力にも気付きました。



アボリジニ

## 3 動物園&キュランダ鉄道

動物園では、コアラと一緒に記念写真を撮りました。コアラもかわいかったのですが、何より、カンガルーの印象が変わりました。カンガルーはずっと跳びはねている印象しかなかったのですが、えさやり体験をしているときに、おっとりしているカンガルーを見て少し驚きました。コアラもカンガルーも初めて触ったので感激しました。さらに、日本では見られない巨大ワニやウォンバットを見ることができた貴重な体験でした。

また、キュランダ鉄道に乗って2時間ほどの旅をしました。バロンフォールズ駅では10分間停車しました。ここではバロン滝を撮影することができます。ゆっくり進んでいくので、気持ちが癒やされました。景色も車内も最高の旅でした。



キュランダ鉄道

## 4 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

今回は三人の方々に自分の研究テーマについて聞いてみました。

### ★中村有佳さん

Q 日本の魅力はどのようにして発信していますか？

A 現地の小中高校生や大人に日本語を教えながら発信している。週末には折り紙教室を開いたり、和太鼓を演奏したりしている。

### ★水野那由太さん

Q オーストラリア人には日本のどんな観光スポットが人気ですか？

A 都会である東京や大阪の観光スポット、そしてスキーが人気。

### ★松井彰大さん

Q オーストラリアならではの世界にアピールできる一番の観光スポットは何ですか？

A 自然が多い森と海。

## V 海外研修を終えて

今回の研修で私が学んだことは、「あいさつ」の大切さです。文化や食べ物、歴史など日本との違いを感じ、学んだことはたくさんありましたが、日本と一番違うのは、「あいさつ」だと思いました。ホストマザーは、知らない人にでもフレンドリーに話しかけ、コミュニケーションをとっていました。私も、簡単な英会話しかできませんでしたが、自分の知っている単語を並べて、一生懸命話すことができました。

そして、ホストファミリーと別れるときは、「大仙市民の歌 夢この大地」を歌いました。「きれいな声だね」と褒めてもらえてとてもうれしかったです。最後には「See you again.」と抱きしめてくれました。

この研修は、一緒に行った仲間たち、ホストファミリーのおかげでとても充実したものになりました。これからの私の将来につながる素晴らしい体験ができた9日間でした。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった教育委員会の皆様、研修をサポートしてくださった先生方、本当にありがとうございました。そして、何より海外研修に参加させてくれた家族に心から感謝したいです。



THANK YOU SO MUCH!

グレートバリアリーフ

# オーストラリアレポート

No.16 南外中学校 伊藤 巧真

## I はじめに

僕が、この研修に参加しようと思った理由は二つあります。一つ目は、今の自分の英語力が海外でどこまで通用するか、試してみたかったからです。英語には少し自信があるのですが、もし将来、海外で生活するとしたら、どの程度の英語力が必要なのか知りたいとも思いました。

二つ目は、海外の自然に興味があったからです。オーストラリアなどの海外の自然を初めてテレビで見たときから、「日本の自然とはまるで違う、この広大な自然をいつか自分の目で見てみたい」と長い間ずっと思っていました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『外国人観光客に関心をもってもらえるイベントとは？』

### 2 設定理由

昨年11月、修学旅行で東京を訪れた際に、浅草や渋谷などでたくさんの外国人観光客を見かけました。では、大仙市はどうでしょうか。大仙市では、それほど多くの外国人観光客を見かけることはありません。

そこで僕は、外国人観光客に、もっと大仙市に関心をもってもらうにはどうしたらよいかと考え、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- ・ オーストラリアでは、豊かな自然を生かして外国人観光客を集め、SNSを活用してその情報を発信し、世界中の人に認知してもらっているのではないかと。
- ・ 日本ならではのものを使ったイベントを企画すると外国人観光客の関心を引くことができるのではないかと。
- ・ 大仙市では、大曲の花火や刈和野の大綱引きなどの行事について、SNSを使って発信すれば、外国人観光客に興味をもってもらえるのではないかと。

## 2 検証方法

- ① 日本のどのようなことについて興味をもっているのか、ホストファミリーにインタビューする。
- ② オーストラリアの観光地では、どのようなことが楽しめるのか、現地調査する。

## 3 調べた内容

- ① オーストラリアの人は、侍や着物などの日本らしいものに興味があるということが分かりました。また、ファームステイ先で稲庭うどんを調理した際、麺が入っていた木箱を見て、「きれいなデザインで好き」だと、ホストファミリーが言っていました。
- ② グリーン島やワイルドライフパークなどの自然を生かした観光地には、中国人観光客を始め、多くの外国人観光客が見られました。グリーン島では、シュノーケリングやグラスボトムボートで、グレートバリアリーフの美しい海の中を見て楽しむことができ、ワイルドライフパークでは、水陸両用車で豊かな自然の中を探検し、珍しい植物や昆虫等を見ることができました。

## 4 考察

オーストラリアでは、美しいグレートバリアリーフの海などの豊かな自然を生かして外国人観光客を集めることができていました。大仙市でも、山を生かした登山やスキーなどの体験ができる場所を積極的に紹介し、そこに大曲の花火や刈和野の大綱引きなどの地域行事の情報も併せて発信すれば、もっと観光客が集められると思いました。情報発信の手段としてはSNSが有効であること、SNSの他に看板やポスターなどもよい手段であることが、オーストラリアで活躍している日本人へのインタビューから分かりました。

また、ホストファミリーや現地で活躍している日本人へのインタビューから、日本語教室や折り紙教室、和食作り体験など日本文化を体験できる企画は、日本に関心をもってもらうのに有効だと思いました。そして、その様子をSNSで広く発信することで、さらに多くの人々に興味をもってもらえると思いました。

僕は将来、海外の多くの人々が大仙市に目を向けるきっかけとなるような企画をしたり、その様子を発信したり、さらに、大仙市に興味をもった海外の方々が実際に大仙市に来たときに役に立てるような活動をしたしたいと思います。

## IV エピソード

### 1 日本料理作り

僕は、ファームステイ二日目、三日目に、研修仲間たちと一緒に冷たい稲庭うどんと温かい稲庭うどんの2種類を作りました。ホストファミリーの皆さんは、どちらも「おいしいね」と言って喜んでくれました。特に、Gladysさんは箸の使い方がとて

も上手で、たくさんの麺を一度にスプーンと持ち上げていたので驚きました。僕たちは、「Nice!」「Good!」「Wonderful!」などと言って盛り上がりました。楽しいひとときでしたし、喜んでもらえてうれしかったです。



箸を上手に使う Gladys さん



喜んでもらった稲庭うどん

## 2 動物園でビックリ！

ファームステイが終わった次の日に、動物園へ行きました。僕はコアラやカンガルーを初めて見ました。とてもかわいかったのですが、残念なことに、カンガルーは僕がエサを出しても全然食べてくれませんでした。

友達に「こっちにワニがいるよ」と言われ、行ってみました。1～2mぐらいの大きさを想像していたら、3～4mの巨大なワニがいました。あまりの大きさに声も出ませんでした。



かわいいカンガルー



巨大なワニ

## 3 オーストラリア在住の日本人にインタビュー！

Q：12歳で渡豪した際、英語に自信はありましたか？

A：最初は自信があったのだが、一瞬でダメだと分かった。全然話せなかった。でも、チャレンジし続けたら話せるようになった。

Q：どのような日本文化が人気ですか？

A：折り紙や和太鼓など、日本特有のものが人気がある。

Q：日本文化を伝える楽しさは何ですか？



A: 例えば、礼の話など日本では当たり前の話をオーストラリアの人は驚いて聞いてくれる。その新鮮な反応が楽しい。

Q: 英語力を高めるために、日本で挑戦するとよいことは何ですか？

A: 英語で書いている看板や英語で説明されているポスターなどを見たり読んだり、自分で作ってみたりしたらよいのではないかな。

## V 研修を終えて

今回の研修で僕が学んだことは、「チャレンジ精神」です。僕は最初、ホストファミリーと全然話すことができませんでした。しかし、思い切って話しかけてみると楽しくて、分からなくなったら友達にフォローしてもらって会話を続けることができました。このように、互いに助け合ってチャレンジすることで自分に自信がもてるし、次の新しい目標に向かって挑戦しようという前向きな気持ちになれます。そうすることで、少しずつステップアップすることができます。

大事なことに気付かせてくれたホストファミリー、同じく研修に参加した仲間たち、現地でお世話になった方々、この旅を安全に終わられるよう配慮して下さった引率の先生方、そして、この研修に参加させてくれた家族への感謝の気持ちでいっぱいです。皆様、本当にありがとうございました。



キュランダ鉄道の車窓から



グリーン島でシュノーケリング



アボリジニ文化の体験



珍しいCurtain Fig Tree

# オーストラリアレポート

No. 17 仙北中学校 竹村 直晃

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は、二つあります。一つ目は、自分の英語力を試してみたかったからです。小さい時から英語が好きで習っていたので、自分の習ってきた英語が現地でどこまで通用するのか自分の力を知りたかったからです。二つ目は、日本とは違うオーストラリアの文化や雰囲気を肌で感じて、物事に対する見方や考え方を広げたいと思ったからです。新たに異国の文化に触れることにより、いろんな目線で物事を見ることができるようになったり、いままで気が付かなかった日本のよさや秋田のよさを見付けられるようになったりするのではないかと思ったからです。家族から離れてオーストラリア研修に行くことに不安はありましたが、それ以上に大仙市の代表としてオーストラリアへ行くことへの誇り、今まで体験したことのない文化・特色への期待感が強くなっていました。そして、1月4日、いよいよ私の海外研修が始まりました。



オーストラリアの農場

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ 『大仙市の観光地の魅力を発信するためには？』

#### 2 設定理由

大仙市には大曲の花火大会というビッグイベントがあります。大仙市大曲地区の人口は約4万人ながら当日は約70万人が集まり、多くの人で賑わいます。その他にも、大仙市には世界に誇れる、魅力ある観光地がたくさんあります。例えば、大仙市豊川の水神社には秋田県唯一の国宝「線刻千手観音等鏡像」があります。秋田県の人でさえ、このことを知っている人は意外と少ないのではないかと思います。同じように、私の地元である仙北地域の国指定史跡「払田柵跡」や国指定名勝「旧池田氏庭園」もあまり知られていないように感じます。そこで、私は発信の仕方を工夫することによって知名度を上げ、訪れる人を増やしていくことが大仙市の地域活性化につながると思いました。そして、大仙市を訪れた国内だけでなく外国の方々が「また来たい！」と思えるような環境を整えていくことが、大仙市には絶対に必要だと思い、この研究テーマを設定しました。



魅力いっぱいの大仙市

### Ⅲ 研究テーマについて

#### 1 予想

私はテーマに対する解決方法として、次の二つの予想を立てました

- ・インターネットや SNS を使った観光情報を発信していくこと。
- ・外国の方々が来やすいように、観光サービス等の環境を整えること。

インターネットや SNS を使った観光情報の発信については、外国で日本のテレビ番組が流れることはほとんどなく、大仙市の魅力を知ってもらうためには、世界中に広がっているインターネットや SNS による発信が効果的だと考えました。

外国の方々が来やすいような環境をつくることについては、安心して大仙市に滞在できるように充実したサービスを提供することが大切だと考えました。そして、二つの項目に対して共通して言えることは、「外国の言語に対応した情報を発信すること」です。たくさんの言語に対応したインターネットサイトをつくることによって多くの国の人々がその観光地の魅力を知り、訪れる人が増えると考えました。また、観光地のインフォメーションセンター等にいろいろな言語を話せるスタッフを置くことができれば、道に迷ったときや困ったときにも母国語で相談でき、安心して訪れることができると思います。

#### 2 検証方法

オーストラリアと日本の観光地の発信の違いについて明らかにするために、次の方法で調べることになりました。

- (1) 家族やクラスメイト、オーストラリアの人にそれぞれオーストラリアの観光地、大仙市の観光地についてよく知っているところについて質問する。
- (2) 現地で活躍する日本人の方に、観光地の発信についての質問をする。
- (3) オーストラリアの観光地に行き、大仙市の観光地との工夫の違いを確かめる。

#### 3 調べた内容

- (1) はじめに、家族やクラスメイトに大仙市の観光地のことを質問しました。すると、やはり大曲の花火の他、払田の柵や旧池田氏庭園のことも出てきました。オーストラリアについては、グレートバリアリーフやボンダイビーチ、ウルルといった有名なものばかりでした。次に、オーストラリアの人たちに聞きました。家族やクラスメイトに聞いたときと同じで、私たちがケアンズのことを知らなかったようにオーストラリアの人たちも大仙市のことを知りませんでした。そこで、範囲を広げて日本のことを尋ねました。すると、浅草などの有名な場所の名前が出てきました。実際にオーストラリア・ケアンズに行ったことで、日本で有名なグレートバリアリーフやボンダイビーチ、ウルルだけではなく、私たちが知らない魅力がたくさんあることを知りました。このやり取りから、まだまだ発信することができていない日本の魅力・大仙市の魅力があると感じました。
- (2) 現地の日本人の方への質問から
  - Q オーストラリアの人は、観光地の情報の発信に何を使っているか？
  - A オーストラリアの人はテレビを見ないので **Twitter** や **Instagram**, **e メール**などを使っている。e メールを使えば来てほしい人に直接送ることができるから便利。

Q オーストラリア人に紹介すれば喜ばれることは何か？

A 日本は、オーストラリア人にとって興味のある未知の国なので、オーストラリアには絶対ないような面白いイベントを紹介すればよい。

Q オーストラリアで観光地の発信で大事にしていることは？

A オーストラリアではオーストラリアにきた人の写真や感想を **Instagram** に上げるなどリアルな声（生の声）を大事にしている。

(3) オーストラリアの観光地が日本の観光地と違うところはたくさんの案内板があることでした。場所の説明はもちろんのこと、「ここで飲食してはいけません」「タバコを吸ってはいけません」など細かい注意点まで、英語だけでなく様々な言語で分かりやすく表示していました。

## 4 考察

調べたことから、大仙市の隠れた名所を世界に発信する手段として、インターネットサイトの他に、多くの海外の人も使っている **Twitter** や **Instagram** などの SNS を活用することで、発信できる範囲が広がったり、必要な情報をピンポイントに提供できたり、情報発信の可能性が大きく広がると思いました。また、インターネットサイトをつくる際には、様々な国の人に見てもらえるように、英語をはじめとする言語に対応することが、大仙市の魅力を広く発信するために必要だと感じました。そして、大仙市を一度訪れた人に「また来たい！」と思ってもらえるようするためには、英語等の外国語を話せるガイドを観光地に置いたり、英語・外国語に対応した表示を増やしたりすることが必要だと、このオーストラリア研修を通して感じました。私も、ふるさと大仙市の魅力を世界に発信して、活気のある大仙市になるように発展に貢献したいと思うようになりました。観光客が増えることによって、街にも活気が溢れると思います。今の自分が大仙市のためにできることを考え、提案していきたいです。



滝や名所を案内してもらいました



稲庭うどんを振る舞いました

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

私は Borgart さん宅にファームステイしました。初日は ホストマザー Gladys さんが観光に連れて行ってくれました。三つの滝に連れて行ってくれました。車では、オーストラリアの動物についてたくさんお話してくれてよい勉強になりました。帰ってからは牧場を紹介してくれました。Borgart さんの家には、牛 80 頭、猫 1 匹、犬 2 匹、鳥が 3 羽いました。二日目には、朝からガーデニング（草むしり）の手伝いをしました。日本では「根から抜け」と言われますが、オーストラリアでは「ちぎって取れ」と言われました。Gladys さんと、ヤギをおりに入れて出荷するのも手伝いに行きました。私たちは見学だけでしたが、ヤギはとてもかわいそうで、命の大切さについて考える機会になりました。

最後の日、Gladys さんから「また戻ってきてね」と言われてとてもうれしかったです。ホストファミリーとたくさん時間を過ごした三日間のファームステイは、とても充実したものになりました。

## 2 食文化の違い！ 日本食を作ってみました！

オーストラリアでは雨があまり降らないため、水がとても貴重です。そのため、洗い物を少なくするために食事はワンプレートにまとめられていました。売られている物も大きいサイズでびっくりしました。オーストラリアでは飲んだ後のペットボトルを水ですすぎ、水を入れるなどして再利用されていました。私たちはホストファミリーに稲庭うどんを振る舞いました。最初は稲庭うどんを茹でたり冷やしたりするのに水がたくさん必要なので、大丈夫かどうか心配でしたが、ホストマザーは「あなたたちはしっかりと3分のシャワーを守っているので水の心配はしなくてもいいよ」と言われた時にはとてもうれしかったです。稲庭うどんは大成功しました。ホストファミリーには、「Delicious!」と言ってもらい、とてもうれしかったです。箸を使うことにも挑戦し、楽しんでくれたのでよかったです。

## V 海外研修を終えて

今回の研修では多くのことを学びました。日本とは違う景色や文化、考え方に触れることで、私の中の価値観が大きく変わりました。滞在中は、現地で見えるもの全てが新鮮であり、私は大きな刺激を受けました。一方で、現地の人のお話す英語はスピードが速く、聞き取るのが大変でした。最初は自分の思っていることをはっきり伝えることもできませんでした。しかし、自分が分かる単語を並べ、相手に伝わったときはとても嬉しかったです。自分の英語力だけで思いを伝えられたことは、私の中で大きな自信となりました。そして、この研修を楽しむことができたのは仲間が存在があったからだと思います。素晴らしい仲間たちと出会い、貴重な経験ができて、私にとって大きな財産になりました。最後になりますが、このような機会を与えてくださった教育委員会の皆様、研修をサポートしてくださった先生方、本当にありがとうございました。そして何より、海外研修に参加させてくれた家族に感謝したいです。

# Australia Report

No. 18 仙北中学校 茂木 柑菜

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は二つあります。一つ目は、英語に興味があったからです。中学生になり、本格的に英語を学ぶようになってから、英語で話すことはとても楽しくなりました。そして、もっと知りたいという思いが強くなりました。私の将来の夢は教師になることです。教師になってから、この研修で学んだことを生かして、英語の楽しさやよさを伝えたいというのが二つ目の理由です。この研修でたくさんのことを学び、将来の夢に近づくために参加することを希望しました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市に住む人を増やし、活性化するにはどうしたらよいか?』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市は、自然豊かで犯罪が少なく、安心安全で住みやすいところです。また、歴史を感じるスポットや伝統的な楽しい行事などがあります。しかし、年々若い人は大仙市を離れてしまい、観光客も減ってきています。そのため、元気が足りなく、寂しい感じがします。魅力をもっと生かし、自分のふるさとを元気にするためにできることを考えたいと思い、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

オーストラリアのケアンズは、大仙市よりも人口や観光客が多く、活気がありそうでした。それは、メディアなどを上手く活用して、アピールしているからではないかと考えました。また、外国人を積極的に受け入れるなどの人を呼び込む工夫をしているのではないかと思います。

### 2 検証方法

- (1) 人口を増やすための工夫と地域活性化のための工夫について比較する。
- (2) 現地で活躍する日本人やオーストラリアの方にインタビューする。

### 3 検証結果

#### (1) 人口を増やすための工夫

大仙市	ケアンズ
約 8 万人	約 15 万人
・外国人が少ない	・外国人が多い(特に日本人) →積極的に外国人を受け入れている
・英語の看板が少ない	・看板や説明がたくさんあった →住みやすい街づくり
・英語を話せる人が少ない	日本語も英語も使える人がたくさん いた →安心できる

#### ・地域活性化のための工夫

大仙市では、大曲の花火や大綱引きなど、楽しいイベントがたくさん行われています。ケアンズでは、イベントはあまりなく、普段の交流を元気に行っていました。あいさつはもちろんのこと、いっぱい笑いながら、楽しそうにコミュニケーションをとっていました。その会話が町を元気にさせていると思いました。

#### (2) オーストラリアの方や現地で活躍する日本人にインタビューしました！

##### ・ホストマザーの Tania さん

Q：Do you like here? (ここは、好きですか?)

A：はい、大好きです！広々としていて、田舎でくつろぐことができます。また、近所の人同士がとても仲が良く、お互いに助け合っています。本当に親切な人が多いです。

##### ・中村有佳さん(日本文化を広める活動をしている方)

Q：効果的なアピール方法がありますか？

A：インスタグラムなどの SNS を使うことです。

##### ・水野那由太さん(プロバイクのレーシングライダーをしている方)

Q：外国人などにもっと来てもらうには、どうしたらいいと思いますか？

A：田舎の方は、英語が話せる人や英語の案内が少ないと思います。だから、外国の人でも分かりやすい街にすることと、英語を話せる人を増やすことが大事だと思います。

### 4 考察、まとめ

住む人を増やすには、二つのことが大切だと思いました。一つ目は、外国人などの大仙市以外に住む人を積極的に受け入れることです。ケアンズには、現地で活躍する日本人が

たくさんいました。ケアンズのように分かりやすく、来た人を安心させられるような街にして、歓迎すればいいと思いました。二つ目は、SNSを上手く活用して、アピールすることです。現地で住む人のリアルな声には、説得力があります。私たちが大仙市の魅力をインスタグラムやYouTubeを使って、発信するとよりよいと思いました。

そして、活性化するには、地域のみなどとの交流が大切だと気付きました。ケアンズでは、住民同士が本当に仲よく、大仙市よりも交流が盛んでした。仲がよく、活気がある街は住みたいと思ってもらえます。また、オーストラリアの人は、自分の故郷が大好きで、誇りに思っていました。そのため、町が生き生きして見えました。大仙市も魅力あふれるところだから、もっと元気にできるはずです。地域の方同士がもっとあいさつをして交流を増やしたり、大仙市の魅力を再発見し、誇りをもって暮らしたりすることで活性化に繋がるのではないかと思います。

## IV エピソード

### 1 ドキドキのファーム体験！

私たちが来た証として、素敵な木を植えました。それと、たくさんの牛たちや可愛いヤギに餌をやりました。Taniaさんが高い声で呼ぶと、いっせいに牛たちが走ってきて面白かったです。とても人懐っこいヤギでしたが、最初に触れあった時は少し怖くて逃げてしまいました。しかし、その後にエサやりをしたら、おいしそうに食べてくれて嬉しかったです。それから、人生で初めてのニワトリの卵を取りました。無事タマゴを取れて、ホッとしました。とった卵は、次の日の朝食で食べました。Taniaさんが育てた牛やターキーの肉も食べました。日本と味が違うから大丈夫かな…という心配は全然いらなくて、毎日とてもおいしかったです！Taniaさんは料理上手なので、レストランのようでした。



Taniaさんの牛のご飯time

### 2 いろいろなところに行きました！



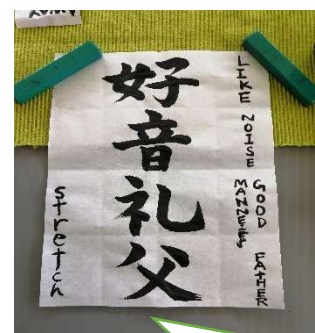
滝の前で仲間と記念撮影

Taniaさんは、まずケアンズの四つの滝へ連れて行ってくれました。どの滝も迫力があって美しかったです。買い物もいっぱいしました。オシャレな雑貨店やスーパーマーケットなど、見ているだけで楽しかったです。かわいいお土産も買いました。博物館にも行きました。アボリジニのことやコアラについての詳しい情報を知りました。そして、一番よかったミルク工場。カフェでは、そこの牛から取れたミルクを使ったものが売られていました。ミルクシェイク、アイス、チョコレートを食べました。甘くて、好きな味でした。



### 3 日本の文化を紹介！

私は、習字が得意なので習字を紹介しました。Taniaさんの家族の名前を漢字で当て字にして書いたら、とても喜んでくれました。私が剣道をしている動画を見せたら、very cool！と言ってくれて、剣道へのやる気が上がりました。その他にも、仲間と一緒に折り紙で鶴を折って渡したり、Taniaさんの元を離れるときに色紙を渡したりしました。丁寧に飾ってくれて嬉しかったです！



Taniaさんの旦那さんの名前

### 4 オージーキッズとの交流

現地の学生と一緒にアーチェリーやダンス、食事を楽しみました。積極的で元気な子が多かったです。企画した二人羽織やパプリカダンスを楽しんでくれて、よかったです。夜には、きれいな土ボタルも見ました。

## V 海外研修を終えて



Taniaさんと仲間と記念撮影！

今の自分にとって、貴重な体験ができました。今までの私なら、小さいことを気にしてしまっていました。しかし、オーストラリアに行ったことで視野が広くなり、あまり細かいことは気にせず、常に前向きになれたような気がします。オーストラリアの方は、オーバーリアクションなので一緒に会話をしていて、とても楽しく感じました。オーストラリア人のおおらかで明るく、いい意味での適度な性格の影響を受けたのかもしれませんが。

日本にいては、気づくことができなかった世界の広さやふるさとのよさなどにたくさん気づくことができました。また、素晴らしい仲間とともに最高の思い出を作ることができました。オーストラリアに行くことができ、本当によかったと思います。今回、学んだことをこれからの生活や将来のために活かしていきたいと思います。

今度は、自分でお金を貯めて行くという夢を叶えたいです。

**Thank you !**



大仙市教育委員会  
Daisen City Board of Education